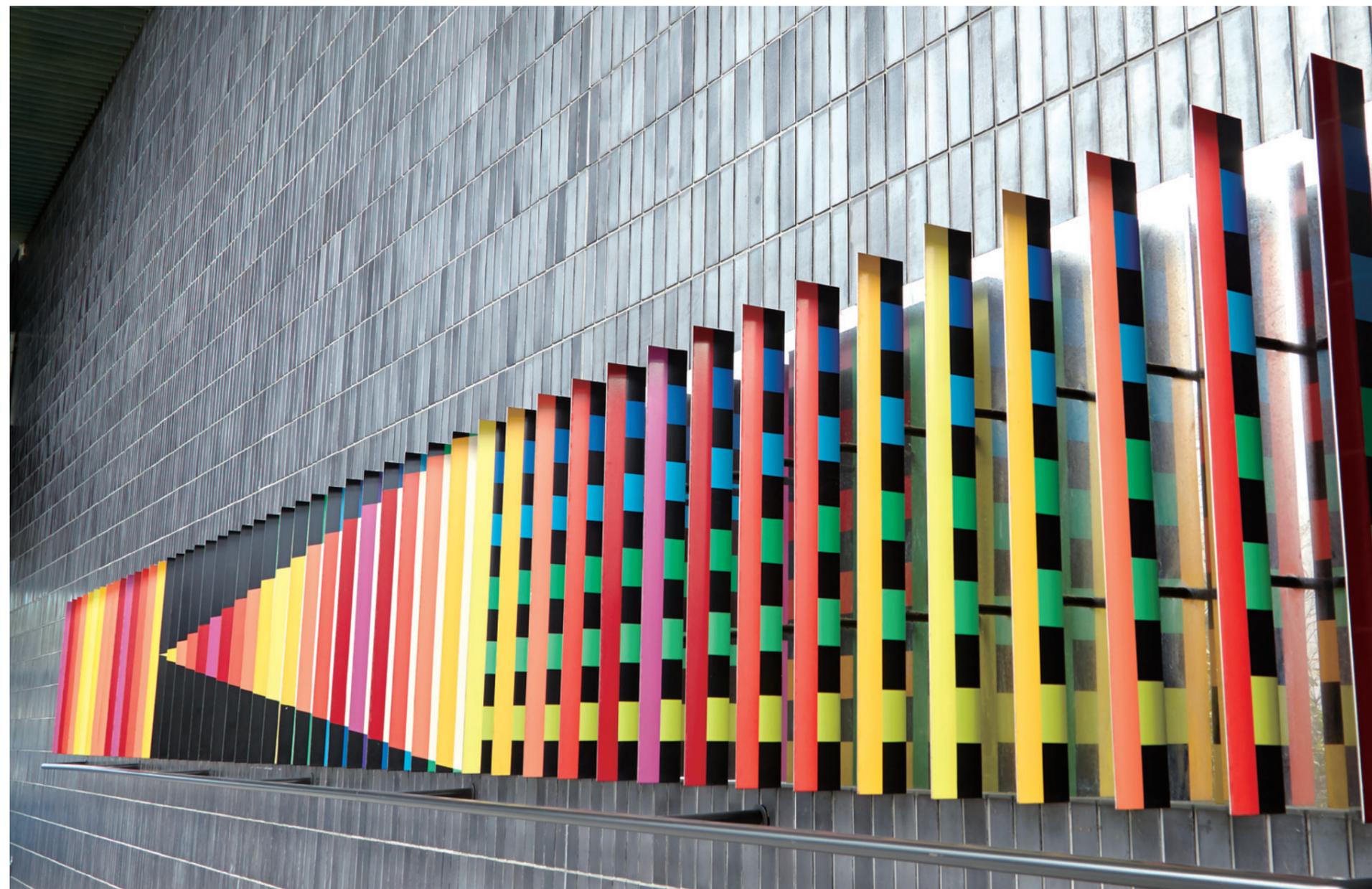


アニュアルレビュー 2021

Annual Review



〒261-8586 千葉県美浜区若葉2-11
TEL:043-276-5111(総合受付)
<https://www.ouj.ac.jp/>



2021年度グッドデザイン・
ロングライフデザイン賞受賞



アニュアルレビュー2021

Annual Review

CONTENTS

	発刊に寄せて 岩永 雅也	3
	特集(2021年度の主な出来事)	5
	学生に向けた教育	7
	社会に向けた教育	14
	放送大学における研究	21
	国際交流への取り組み	31
	教員による社会貢献	33
	学習センター・学生の活動	41
	データで見る放送大学	46

【企画】2021年度放送大学学内広報委員会

委員長：情報／辰己 丈夫教授
 副委員長：社会と産業／齋藤 正章准教授
 生活と福祉／戸ヶ里 泰典教授 心理と教育／波田野 茂幸准教授
 人間と文化／島内 裕子教授 情報／森本 容介准教授
 自然と環境／加藤 和弘教授 茨城学習センター／佐藤 和夫所長
 学習センター支援室／山内 克也室長
 オブザーバー：菊川 律子副学長
 事務局：総務部広報課

【編集】2022年度放送大学学内広報委員会

委員長：情報／辰己 丈夫教授
 副委員長：生活と福祉／戸ヶ里 泰典教授
 社会と産業／松井 美樹教授 心理と教育／波田野 茂幸准教授
 人間と文化／大橋 理枝教授 情報／大西 仁教授
 自然と環境／加藤 和弘教授 和歌山学習センター／宗森 純所長
 学習センター支援室／山本 慎一室長
 オブザーバー：菊川 律子副学長
 事務局：総務部広報課



2021年度学位記授与式

2022年3月23日(水)、2021(令和3)年度学位記授与式を、国技館(東京都墨田区)において挙行了。2021年度の学部卒業生は6,778名、大学院修士課程修了生は228名、大学院博士課程修了生は8名であった。

卒業証書・学位記授与(教養学部卒業生総代菅野佑香さん、修士課程修了生総代山田香織さん、博士後期課程修了生総代小林文さんが壇上で受領)の後、岩永学長による式辞、末松信介文部科学大臣・金子恭之総務大臣のビデオメッセージによる祝辞、北野敏夫放送大学同窓会連合会会長からの祝辞に続き、教養学部卒業生総代松本昌之さん、修士課程修了生総代古館康司さん、博士後期課程修了生総代水野哲也さんによる謝辞があった。その後学長表彰が行われ、全専攻または全コースを卒業した131名の「放送大学名誉学生」(代表松山雅英さん)が表彰された。続いて、優れた教育活動を行った専任教員に与えられる「優秀授業賞」を大橋理枝教授、「研究功績賞」を野崎敬教授が受賞した。学位記授与式の模様は、後日BS231ch及び232chにおいて同月中に複数回放送された。



環境変化を 奇貨として改革へ 6年計画で示す決意

放送大学長 岩永 雅也

2021年4月学長に就任した岩永学長に、コロナ禍の影響を受けながら策定した「教学Vision2027」を基に、今年度を振り返り、また来年度の抱負について伺いました。



質の高いオンライン授業へ

放送大学は、放送により講義を行うユニークな通信制大学として1983年に発足して以来、のべ170万人の学生を受け入れ、12万人の卒業・修了生を送り出してきました。1980年代から今日まで、遠隔高等教育の日本における先駆けとして全力で活動してきましたが、ここ数年、コロナ禍で高等教育の状況は一変しました。やむにやまれぬ事情により通学制大学の多くが遠隔授業を採用し始め、あらゆる教育の現場が驚くほどの早さでオンライン化していく中、放送大学だけが初期の授業スタイルを固持し続けていることに危機感を覚えました。そして「時代と技術的状况に迫いつき、社会の新しい需要に応えなければ」と思い至りました。この2年、他大学のオンライン授業なども参考にさせていただきましたが、拝見するところ、従来の教室での講義を録画して配信していることが多いように思います。この手法の良い点は「臨場感があること」です。大学で勉強する「雰囲気」も大事にしたいという人には向いていると思いますが、「未整理な話の展開」や「言いよどみ」などロスも多く、非効率である点は否めません。一方、放送大学のオンライン授業は、「90分授業の内容を45分で伝えられる」という点が強みです。ディレクター、映像、音声など放送業界で経験を積んだ方々の協力を得ながら、長く使用する「教材」として制作したオンライン授業は、1回限りの授業より優れていると自負しています。こうした自信と放送授業制作の経験を背景に、放送大学では、他の機関では提供できない質の高い授業によるさらなるオンライン化を目指していきます。

学びの多様性に応えるDX

2021年度は、このたび発表した「教学Vision2027」の策定に注力した1年でした。その中に掲げた目標のひとつにDX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進があります。現在、放送大学のオンライン授業科目は、およそ100科目、ようやく全体の1/5に届くかといったところ。それ以外でも、テレビ授業をインターネット配信で、ラジオ授業をインターネット配信サービス「radiko」で提供しています。本来それらは放送科目ですので、厳密に言えば、オンライン科目ではないのですが、多くの学生がオンライン的（つまりオンデマンドでの）視聴をしています。2020年度に実施した調査でも、6~7割の学生が放送をリアルタイムで視聴せず、主にそうした配信を利用しているという結果が出ました。

2022年度からは、これまで対症療法のような形で進めてきたものを体系化して、効率よくDXを推進していきます。まずは2022年度中にIBT（Internet Based Test）を試験運用します。試験中の監視など課題はありますが、単位認定試験をインターネットベースに移行する予定です。これが実現すれば、離島など遠隔地に住む方や、「日本の学位を取りたい」という在外邦人、日本への留学希望者などの期待にも応えられます。こうした計画の詳細については「教学Vision2027」にまとめました。このタイトル中の「2027」は5年後の西暦です。これまでの本学のビジョンは起点的な年をタイトルに入れるのが常でしたが、「実行の決意を表すためには起点ではなくゴールを示すべき」との周囲のアドバイスもあり、今回はあえて完成年度を示しました。スローガンは「ひとりひとりに最適な学びを放送大学

から」。多様な人々が多様なスタイルで自由に学ぶための選択肢を用意します、というお約束とともに、あくまでも学習の主体は自分自身です、というニュアンスを盛り込みました。リーフレットの表紙のイラストも多様な人々が放送大学の学びに向かうイメージです。



教学Vision2027
リーフレット表紙

放送大学の新たな価値

2022年度は、これから始まる「教学Vision2027」のスタートラインとして、大変重要な年になります。ものごとの成否はスタートで決まってしまうことが往々にしてあります。ゴールがずれてしまわないよう、正しい方向に好スタートを切りたいと思っています。これまでの放送大学は、若い頃の勉強不足をリカバーするセーフティネットの大学と考えられていましたが、そのような目的の入学者はかなり減り、そうした役割への社会的期待はだいぶ薄れてきたように感じます。これからは、放送大学



での学習のメリット、①新しい技術に即応した学びやすい授業を効率的に制作し提供できる、②ロケ映像などを教材にふんだんに盛り込める、③フルタイムで通学する必要がないなどを評価して、リカレント教育を目的に入学する方々が増えることを期待しています。そうしたメリットは、そのまま今後の放送大学の強みとなっていきます。多様な学習者ひとりひとりの都合に最大限寄り添える大学という意味で、デパートでもなく、大型スーパーでもなく、コンビニエンスストアのような存在、学びたいことを、学びたいときに、しかも質の高い授業で…これからの新しい放送大学にご期待ください。

【特集】2021年度の主な出来事

同時双方向Web授業試行について

同時双方向Web授業タスクフォース主査 青木 久美子

2020年初頭に始まったコロナ禍により、2020年度第1学期には全国の学習センターの面接授業が閉講となった。それにより卒業予定の学生に影響が出ることを避けるため、代替措置としてWeb会議システムを活用した同時双方向の遠隔授業を実施した。これをきっかけに、従来の放送授業、面接授業、オンライン授業に次ぐ新たな教育形態として同時双方向Web授業を位置付けることを目指すこととなった。その後、新執行部のもと2021年度第2学期の試行に向けて、2021年度5月に学長直属の同時双方向Web授業タスクフォースが立ち上げられた。タスクフォースでは、2021年度第2学期の試行のためのガイドラインの策定、試行運用の詳細の検討がなされた。2022年度以降の本格運用とは大きく異なる点として、試行では、学内制度との整合性と学生募集時の混乱を防止するために、オンライン授業ではなく、面接授業の建付けとして

実施した。また、2020年度に実施した面接授業の代替措置としてのWeb授業との大きな違いは、Web会議システムであるZoomへの誘導もオンライン授業で使用している学習管理システムであるMoodleを活用して、教材等もLMS上に掲載できるようにしたところにある。

2021年度第2学期の試行実施に関しては、開講時期を2021年11月から2022年1月とし、履修受付を行った。タスクフォースメンバーの教員を中心に、計9名の教員が9科目の授業を開講し、延べ184名の学生が受講し、全科目大きな問題なく終了した。全受講生を対象に行ったアンケート調査(回答率75%)によると、大多数の学生が提示された資料等の分量、及び課題の分量は適切であり、若干授業の難易度は難しいという回答はあったものの7割が適切であったと応えていた。目立ったコメントとしては、「演習形式の授業が楽しくやり

がいがあった」、「リラックスして受講しながらも、緊張感があった」、「質問がしやすかった」というポジティブなものが多かった半面、不適切な通信環境や情報リテラシー不足、さらにはレポートに取り組む時間の欠如、などが課題としてあげられていた。授業の満足度との有意な相関関係が強かった要因の順に、「講師の説明の分かりやすさ」、「学習管理システムの使い易さ」、「Web会議システムの使い易さ」、「課題の難易度」、「資料等の分量」、「講師との質問の機会」があり、「今後も同時双方向Web授業が開講されたら受講を希望しますか。」という問いに対して、6割弱の回答者が「非常に希望する」、3割弱の回答者が「希望する」と応えており、回答者全体の9割近くが今後も受講を希望していることがわかり、2022年度には2023年度からの本格運用を目指した拡充を行っていくことが計画されている。



時間割: ライブ Web 授業 Pythonで学ぶPython	
1日目 [2022年1月6日]	第1時限 09:50~11:20
	第2時限 11:35~13:05
	第3時限 14:05~15:35
	第4時限 15:50~17:20
2日目 [2022年1月7日]	第1時限 09:50~11:20
	第2時限 11:35~13:05
	第3時限 14:05~15:35
	第4時限 15:50~16:35

単位認定試験のIBT化に向けて

副学長 隈部 正博

本学では2019年度まで、学習センター、サテライトスペース等を使用し単位認定試験を実施していたが、ご存じのとおり新型コロナウイルス感染症の蔓延を受け、臨時的な措置として2020年度第1学期の単位認定試験より、学生

は、本学が提供する試験問題をWebやコンビニエンスストアから入手し、自宅等で解答を行い郵送により提出する方式にて実施した。

この方式の最大の欠点は、試験の厳格

性が担保出来ず、それによって科目履修における教育効果の低減を招いてしまうことである。問題を認識しつつも感染拡大の終わりが見通せない中、自宅での受験方式を2年間実施せざるを得ない状況となっていた。

この問題を解決するに際して、本学が抱える試験制度の従前からの問題

- 試験の公正性のために試験日程・時間が決められおり、学生が試験日時を考慮した上で科目選択しなければならないこと
- 社会人学生は、試験のために休暇を取り受験しなければならないこと
- 離島などの遠隔地に在住の学生は、受験するために学習センターに泊まりがけで出かけなければならないこと

これらの根本的な解決も同時に考慮した結果、単位認定試験制度を改革し、Web通信指導のシステムを活用した、Web版の単位認定試験のシステムを導

入し、2022年度の単位認定試験より実施することを決定した。従って学生は、自宅からWeb版の単位認定試験のシステムにアクセスし試験を受けることができる。しかし、Web環境を持たない学生、パソコン操作困難な学生については、学習センター等を利用して単位認定試験を受験して貰うこととした。

2021年12月後半にシステム体験版が公開され、学生がマニュアルを元に練習し、自力でWeb単位認定試験を受ける要領を身につけてもらえるようにした。さらに、それができないデジタルデバイドの学生については、学習センターに来ていただき、講習を受ける機会を設けた。こうして出来るだけ多くの学生が、シ

ステムにアクセスして受験できるようサポート体制を整えた。

このWebによる試験の実施方法は、段階を踏んで厳格性を高めて行くことを予定しており、本学としての新たな単位認定試験となるIBT (Internet Based Testing)となることを目標としている。2022年度の試験の厳格性は、50分という試験時間に限られる。学習センター等で実施していたような厳格性は確保できないが、2020年度や2021年度に実施した自宅受験の方式からは脱却でき、学生の利便性の改善も可能であることから、第一段階として実施するものである。

新型コロナウイルス感染症と学習センター

副学長 菊川 律子

2021年度も年間を通して新型コロナウイルス感染症への対応を迫られる一年だった。流行の推移を見守りながら、本部は基本的対応の考え方を示すとともに、各学習センターは地域による感染状況を勘案しながら対処した。まず学習センターの開所時間や電話の受付対応について適宜開所や閉所時間の変更を行った。ウェブサイトで最新の情報を流すとともに、インターネットによる学習相談に取り組んだセンターもあった。日頃学習センターでサークル活動やゼミ活動をされている学生さんにご不便をおかけすることになったが、学生さんの感染を防ぐ意味でも対応せざるを得なかった。

また、全学習センター・サテライトスペースにサーマルカメラ等を設置し、学生さんには出入時ご利用いただくとともに、

アルコール消毒やマスク着用にもご協力いただいた。さらに、入学式や学位記授与式、公開講演会等もオンラインでの開催とならざるを得なかった。2021年度は第4波から第6波のコロナウイルス感染症の流行が続き、試行錯誤のなか、大学全体として対応の努力が続けられた。

単位認定試験は2020年度同様自宅受験であった。並行して本部では2022年度からの単位認定試験のIBT化を目指しての検討、準備が続けられた。一年を通して細かい調整が続けられたのは、面接授業であった。感染状況を見ながら、対面、Web方式への切り替え、閉講が判断されたが、2021年度は当初からこの方針が予め検討され学生さんに知らされていたため、大きな混乱は避けられた。対面の場合も密を避けるための

定員減や、越境受講が禁止されたりした。閉講もあったため、コロナ禍以前よりは数が少なくなったが、極力開講の努力が続けられた。具体的には2021年度第1学期は1,031科目、第2学期は1,381科目であった。この1,381科目のうち、対面式の面接授業は1,299科目、Web会議システムを利用した授業は82科目であった。このWeb方式の面接授業の開講は、今後に向けて新たな可能性を広げている。



学生に向けた教育

放送授業(テレビ・ラジオによる授業)



放送授業は、BSテレビ(232ch)またはBSラジオ(531ch)で受ける授業である。科目によってテレビ科目とラジオ科目に分かれており、BS放送やケーブルテレビなどを通じて、全国で放送されている。なお、学生専用サイト(システムWAKABA)では、全ての科目をインターネット上で配信しており、時間と場所を選ばずにパソコンやスマートフォンなどで視聴可能である。1コマ45分の授業が15コマで構成された2単位科目である。

2021年度は、学部292科目、大学院55科目の合計347科目を開講している。制作された放送授業は、原則として4年間(毎年2学期、合計8学期間)開講し放送するため、全開設科目のおよそ4分の1ずつが毎年入れ替わる。

2021年度の新規開設科目は、学部45科目*(テレビ26科目、ラジオ19科目)、大学院14科目(テレビ3科目、ラジオ11科目)の合計59科目である。

* 資格取得等に資する科目を含む

2021年度 開設科目数			
	テレビ科目	ラジオ科目	計
学部	165	127	292
大学院	3	52	55
計	168	179	347

2021年度新規開設科目(基盤科目)

基盤科目	科目名	メディア
	市民自治の知識と実践('21)	ラジオ
	社会と産業の倫理('21)	ラジオ
	日本語リテラシー('21)	テレビ
	遠隔学習のためのパソコン活用('21)	テレビ

基盤科目(外国語)

ビートルズ de 英文法('21)	ラジオ
英語で「道」を語る('21)	テレビ

2021年度新規開設科目(コース科目)

生活と福祉		
導入科目	疾病の成立と回復促進('21)	テレビ
	疾病の回復を促進する薬('21)	テレビ
	睡眠と健康('21)	ラジオ
専門科目	食の安全('21)	テレビ
	認知症と生きる('21)	テレビ
	子どもの人権をどうまもるのか('21)	テレビ

心理と教育		
導入科目	現代教育入門('21)	ラジオ
専門科目	乳幼児の保育・教育('21)	ラジオ
	道徳教育論('21)	ラジオ
	学校図書館サービス論('21)	テレビ*
	心理学統計法('21)	テレビ
	学習・言語心理学('21)	テレビ
	心理カウンセリング序説('21)	テレビ
	感情・人格心理学('21)	ラジオ
	心理臨床における法・倫理・制度('21)	ラジオ
	福祉心理学('21)	ラジオ
	障害者・障害児心理学('21)	ラジオ

社会と産業		
導入科目	社会学概論('21)	テレビ
専門科目	刑法と生命('21)	ラジオ
	日本政治思想史('21)	ラジオ
	雇用社会と法('21)	テレビ
	マーケティング('21)	テレビ
	サプライチェーン・マネジメント('21)	テレビ
	NPO・NGOの世界('21)	ラジオ
総合科目	世界の中の日本外交('21)	テレビ
	環境と社会('21)	ラジオ

人間と文化		
導入科目	日本近現代史('21)	ラジオ
	日本文学と和歌('21)	ラジオ
専門科目	西洋音楽史('21)	ラジオ
	韓国朝鮮の歴史と文化('21)	ラジオ
	都市から見るヨーロッパ史('21)	テレビ

情報		
専門科目	問題解決の数理('21)	テレビ*
	情報デザイン('21)	テレビ

自然と環境		
導入科目	ダイナミックな地球('21)	テレビ
専門科目	植物の科学('21)	テレビ
	量子物理学('21)	テレビ
	はじめての気象学('21)	テレビ
	正多面体と素数('21)	テレビ
総合科目	暮らしに役立つバイオサイエンス('21)	テレビ

大学院 2021年度新規開設科目

生活健康科学	家族政策研究('21)	ラジオ
	リスク社会における市民参加('21)	ラジオ
	健康・スポーツ科学研究('21)	ラジオ
人間発達科学	海外の教育改革('21)	ラジオ
	カリキュラムの理論と実践('21)	ラジオ
臨床心理学	臨床心理地域援助特論('21)	ラジオ
	学校臨床心理学特論('21)	テレビ
	心理・教育統計法特論('21)	ラジオ
	発達心理学特論('21)	テレビ
人文学	日本史史料を読む('21)	ラジオ
	西洋中世史('21)	ラジオ
	日本文学の研究史('21)	ラジオ
	モダニズムの文学と文化('21)	ラジオ
自然環境科学	数理科学('21)	テレビ*

面接授業(スクーリング)

面接授業(スクーリング)は、放送授業とは別に受講する独立した科目で、教室などの場で教員から直接指導を受ける授業である。また、学友と共に学んだり、教員と交流を深めたりできる貴重な機会である。全国50カ所の学習センターと、全国7カ所のサテライトスペースで、年間約3,000クラスが開講されている。

2021年度は、2,412科目(1学期1,031科目、2学期1,381科目)を開講した。面接授業はすべて、1科目1単位で、1時間30分の授業7回、45分の授業1回、計8回で構成されている。面接授業が行われるのは、教室の中だけでなく、学習センター以外の場所でも実習等を行う授業も開講している。



専門科目: 人間と文化

四天王寺信仰を読み解く

講師	一本 崇之(和宗総本山四天王寺学芸員/四天王寺大学非常勤講師)
開講日	2021年12月18日(土)、19日(日)

【授業テーマ】

- 第1回 四天王寺の歴史
- 第2回 四天王寺絵堂と聖徳太子絵伝 - 聖徳太子信仰の源流 -
- 第3回 『四天王寺縁起』を読む
- 第4回 四天王寺の浄土信仰 - 西門と日想観 -
- 第5回 四天王寺の舍利信仰
- 第6回 四天王寺における聖徳太子御忌事業
- 第7回 四天王寺の実地見学
- 第8回 四天王寺の実地見学



大阪・四天王寺は、推古天皇元年(593)に聖徳太子が創建した日本最古の官寺です。関西の方であれば馴染みのあるお寺であり、現在も「大阪の仏壇」として多くの方が参詣に訪れます。一方で、平安時代以降、聖徳太子信仰や浄土信仰の聖地として隆盛し、天台宗や浄土真宗はじめ各宗派に多大な影響を及ぼしてきた重要な寺院であったということ、戦災や自然災害による度重なる伽藍焼失の危機に直面しても、その都度朝廷や幕府のみならず庶民の支えによって復興を遂げてきたことは、実は地元の方であってもあまり知られていません。

本講義では、四天王寺の歴史を踏まえたうえで、太子信仰を基盤として舍利信仰や浄土信仰が複合的に重なって形成された「四天王寺信仰」というべき独自の信仰を、多くの文献史料とともに詳しく読み解きました。また聖徳太子の1200年・1300年の御忌における様々な事業を取り上げ、太子への信仰に基づいた人々の営みを紹介しながら、1400年御忌となる今をどのように迎えるのかということにも目を向けます。そして講義の最後には、現地を実際に見学し、それらの信仰が今日にも息づいている「生きた寺院」としての四天王寺の姿を体感していただきました。

「なぜ古代寺院である四天王寺が度重なる罹災を乗り越え現在にまで存続しえたのか」という大きなテーマを念頭に置き、四天王寺の歴史・信仰をその背景となる日本の仏教史や文化史とともに総合的に学び、実際に現場を訪れることで、四天王寺を信仰した当時の人々の想いを追体験しながら、その信仰が現在進行形で続いているということを深く学ぶ機会となりました。なお、大阪学習センターでは、毎年度8科目程度の学外実習科目を開講しており、この科目は2021年度に実施した学外実習科目の一つです。



授業紹介
東京国立
学習センター

専門科目:自然と環境

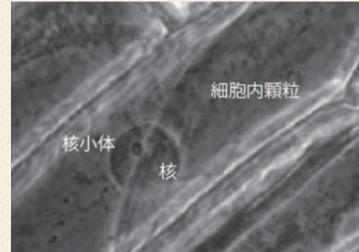
細胞のダイナミクスを覗く

講師 最上 善広(東京国立学習センター客員教授)
開講日 2021年10月16日(土)、23日(土)

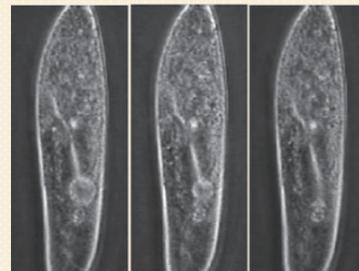
【授業テーマ】

- 第1回 細胞運動に関するイントロダクション及び実験試料(ゾウリムシ)の培養
- 第2回 顕微鏡の構造と使い方
- 第3回 原形質流動(植物細胞)観察
- 第4回 暗視野照明を取り入れた顕微鏡の改造
- 第5回 培養したゾウリムシの遊泳行動の観察
- 第6回 細胞内部構造の観察
- 第7回 繊毛・鞭毛運動の観察
- 第8回 色々な光学系を持つ顕微鏡の紹介。授業のレポートの取りまとめ

細胞は生命活動を担う多くの反応が進行する場所です。エネルギーや生体物質を生成する一方で、細胞の中は動きを伴うダイナミックな現象で満ちています。この実習では、そのダイナミズムをリアルタイムで観察することを目的としています。細胞内のダイナミズム観察の道具となる光学顕微鏡は小学校以来おなじみの実験器具ですが、使いこなす機会が充分だったとは言えません。顕微鏡の原理と使い方を確認したうえで、細胞内部の微細な構造とダイナミクスの可視化を目指した、顕微鏡のカスタマイズ(改造)を行います。それらを使い、原形質流動、繊毛・鞭毛運動等の細胞運動の実際を観察します。試料として、タマネギの表皮細胞やウニ精子を用いるほか、自分たちでゾウリムシの培養を行い観察に用いました。



タマネギ表皮細胞での原形質流動



ゾウリムシの収縮胞



授業紹介
茨城
学習センター

専門科目:自然と環境

園芸学の基礎

講師 井上 栄一(茨城大学教授)
開講日 2021年11月7日(日)、14日(日)

【授業テーマ】

- 第1回 日本の食、農業と園芸
- 第2回 園芸作物の種類と特徴
- 第3回 園芸作物の育種と繁殖
- 第4回 園芸作物の形態と生理・生態的特性(1)野菜
- 第5回 園芸作物の形態と生理・生態的特性(2)果樹
- 第6回 園芸生産の実際
- 第7回 園芸生産物の保蔵と利用
- 第8回 園芸生産物の健康機能性

野菜、果実、花きからなる園芸作物は日本の農業生産額のおよそ4割を占める主要な作物です。本授業では高品質な園芸作物を安定的に生産するための学問分野である園芸学について、農学の初心者でも楽しみながら学べるように心がけました。まず導入において園芸を取り巻く農と食の現状について事例を交えて説明し、続いて野菜と果樹を中心に園芸作物の種類や品種改良、生理・生態的特性と栽培技術の関係、生産や利用の実際などについて科学的に説明しました。茨城学習センターが設置されている茨城県は全国有数の農業県として首都圏の食を支えています。その生産額の約半分が園芸作物によるものです。メロン、ハクサイ、レンコン、ピーマン、サツマイモなど多くの品目で全国一の生産量を誇ります。今回の授業では遠方からの参加者を含め多くの方にご参加いただきました。受講生の皆さんからは、「今まで知らなかったことを知ることができ、食品に対する意識が変わりそうです」、「農業の大切さをあらためて学ぶことが出来ました」、「国が協力して若い人にも農業に希望が持てるようにしてほしい」など様々な感想や意見をいただきました。今回、身近な野菜や果物の生産を科学的に考える園芸学の学習をきっかけとして、食料の持続的な供給に貢献する農業にあらためて興味を持っていただければ幸いです。



オンライン授業

オンライン授業は、インターネットに接続されたパソコンなどを使い講義を視聴し、学習活動や成績評価の課題(選択式問題、レポート、ディスカッション等)に取り組む授業である。1単位(8コマ)の科目と、2単位(15コマ)の科目があり、1コマあたり、講義が45分程度と学習活動が45分程度を合わせた90分程度である。成績評価は課題により行うため、通信指導や単位認定試験はなく

(一部科目は単位認定試験を実施)、自宅や職場などインターネット環境があれば、場所や時間に縛られることなく自分のペースで学ぶことができる。2021年度は、2020年度に制作された教養学部6科目と大学院修士課程6科目を新規開講した。また、2022年度1学期開講の教養学部4科目と大学院修士課程科目2科目、及び2学期開講の教養学部科目3科目が新規制作された。



2021年度教養学部 新規開設科目

コース	科目名	単位数	
社会と産業	専門	緑地環境の計画('21)	2
情報	導入科目	Rで学ぶ確率統計('21)	1
	導入科目	表計算プログラミングの基礎('21)	1
	専門科目	小学校プログラミング教育概論('21)	1
自然と環境	導入科目	物理と化学のための数学('21)	1
	専門科目	力と運動の物理演習('21)	1

2021年度大学院修士課程 新規開設科目

プログラム	科目名	単位数
生活健康科学	食健康科学('21)	1
社会経営科学	統合イノベーション制度研究('21)	1
	『貨幣・勤労・代理人』文献講読('21) —近代経済社会の文明的・反文明的特性を読む—	1
	法律学文献講読('21)	1
人文学	文化人類学の最前線('21)	2
情報学	研究のためのICT活用('21)	2

オンライン授業科目数推移

	2015		2016		2017		2018	2019		2020	2021
	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	1学期	2学期	1学期	1学期
制作科目数 (コマ数)	11 (116)		13 (160)		12 (159)		10 (136)	14 (129)		12 (109)	9 (114)
運用科目数	2	2	10	13	20	26	38	48	50	61	72

科目群履修認証制度(放送大学エキスパート)

放送大学 **エキスパート**

「科目群履修認証制度(放送大学エキスパート)」は、本学が2006年から実施している学習プログラム(履修証明プログラム)で、学校教育法第105条「履修証明制度」に対応している。本学が指定する特定の授業科目群23プランに沿って専門分野を体系的に学び申請することで、修了者には法に基づく認証状と証明書のほか、希望者には携帯できる認証カードが交付される。履歴書への記載や、博物館などでのボランティア活動に役立つ。

2022年1月31日までの累計認証取得件数は29,937件である。

学校教育法第105条「履修証明制度」とは…

社会人などを対象とした、2007年に始まった新しい履修・学習の証明制度。大学などが開設した一定のまとまりある学習プログラム(履修証明プログラム)の修了者に対して、大学などが法に基づく「履修証明書」(certificate)を交付できる制度(詳細は文部科学省のホームページを参照:https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/shoumei/)である。

2021年度認証プランと認証状取得者数(2022年1月31日現在)		
認証プラン名	認証状の名称	認証状取得者数
健康福祉指導プラン	健康福祉運動指導者	2,851
福祉コーディネータプラン	福祉コーディネータ	2,799
社会生活企画プラン	社会生活プランナー	1,438
食と健康アドバイザープラン	食と健康アドバイザー	912
心理学基礎プラン	心理学基礎	4,138
臨床心理学基礎プラン	臨床心理学基礎	2,367
市民活動支援プラン	市民政策論	681
異文化コミュニケーションプラン	異文化理解支援	1,265
日本の文化・社会探求プラン	日本の文化と社会	692
宇宙・地球科学プラン	宇宙・地球科学	792
環境科学プラン	環境科学の基礎	809
芸術系博物館プラン	芸術系博物館活動支援	1,383
歴史系博物館プラン	歴史系博物館活動支援	1,610
自然系博物館プラン	自然系博物館活動支援	696
工学基礎プラン	工学基礎	414
人にやさしいメディアデザインプラン	人にやさしいメディアのデザイン	168
計算機科学基礎プラン	計算機科学の基礎	295
地域貢献リーダー人材育成プラン	地域貢献リーダー人材	581
日本文化を伝える国際ボランティア・ガイド(基礎力)養成プラン	日本文化を伝える国際ボランティア・ガイド(基礎力)養成	213
学校地域連携コーディネータープラン	学校地域連携コーディネーター	97
データサイエンスプラン	データサイエンス	131
データサイエンスリテラシープラン	データサイエンス・リテラシー	22
データサイエンスアドバンスプラン	データサイエンス応用基礎	9
実践経営学プラン※①	経営の理解	638
ものづくりMOTプラン※①	ものづくりとMOT(技術経営)を学ぶ	378
コミュニティ学習支援プラン※①	地域生涯学習支援	342
アジア研究プラン※①	アジア研究	507
エネルギー・環境研究プラン※①	エネルギー環境政策論	337
社会探求プラン※②	現代社会の探求	668
次世代育成支援プラン※②	次世代育成支援	1,294
生命科学プラン※②	生命人間科学	944
社会数学プラン※②	数学と社会	466
合計		29,937

※①がつくプランは、2019年3月31日をもって廃止しましたが、経過措置として2024年3月31日まで申請が可能です。
 ※②がつくプランは、2021年3月31日をもって廃止しましたが、経過措置として2026年3月31日まで申請が可能です。

寄附科目

本学では、様々な機関からの支援を受け、社会の要請に応じた寄附科目を開設している。2021年度には、2科目の寄附科目を放送した。

2021年度開設寄附科目一覧		
科目名	寄附団体名	メディア
著作権法('18)	日本音楽著作権協会(JASRAC)	ラジオ
現代の内部監査('17)	日本内部監査協会	テレビ

キャリアアップ支援【資格取得】

教員

本学では、現職教員が教育職員検定により、上位や他教科等の教員免許状を取得しようとする際に必要な科目の一部又は全部を履修することができる。

また、2009年度からの教員免許更新講習制の実施に伴い、2021年度まで教員免許更新講習を実施した。本学の特性を活かし、テレビ・ラジオ及びインターネットを利用し、全国どこでも講習の受講を可能としていた。2021年度においては夏期及び冬期の2回実施し、約13,000人が延べ約60,000科目を受講した。

- ▶ 上位・他教科・隣接校種の教員免許状
- ▶ 特別支援学校教諭免許状(知的障害者教育領域・肢体不自由者教育領域)
- ▶ 養護教諭免許状
- ▶ 栄養教諭免許状
- ▶ 学校図書館司書教諭資格



看護師

准看護師として7年以上の就業経験を有し、看護師学校養成所2年課程(通信制)に入学して65単位以上を修得して卒業すると、看護師国家試験を受験することができる。その際、放送大学で修得した単位を各養成所の判断により、総取得単位の2分の1を超えない範囲で当該養成所において修得したものと認定を受けることができる。なお、カリキュラム改正により、2023年度入学生から総単位数が68単位以上に変更になる。

また、放送大学大学院では、看護師の特定行為研修科目のうち、共通科目(講義・演習部分)をオンライン授業科目として全国の看護師に提供する。なお、2022年2月現在、本学は指定研修機関32機関の協力施設となっている。

- ▶ 看護師国家試験受験資格
- ▶ 看護師の特定行為研修制度対応科目



心理学

本学で人気のある心理学は、科目が豊富で、生活や仕事に役立つ知識を得られるだけでなく、資格取得を目指すことも可能である。

日本心理学会が認定する「認定心理士」は、職業に直結する資格ではないが、心理職を目指す人には大切な第一歩であり、本学ではこれまでに12,300人以上が資格取得要件を満たしている。

また、臨床心理学にもとづく知識や技術を用いて心理的な問題を取り扱う「臨床心理士」は、内閣府の認可する公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会が認定し、公立学校スクールカウンセラーの資格要件になるなど、公的にも認められている。本学大学院は、受験資格を得るために同協会が指定する大学院(2種)で、修士全科生として臨床心理学プログラムを修了し、修了後合計1年以上の心理臨床実務経験を積んだ後に受験可能になる。本学での臨床心理士資格審査の合格率は、74.6%であった(2017年度～2021年度の実績平均)。

「公認心理師」は2015年に成立した「公認心理師法」に基づく、心理職初の国家資格である。本学では、2019年度より学部段階における公認心理師カリキュラムを開設した。なお、対応科目のうち「心理演習」と「心理実習」の2科目を受講するためには選考試験に合格する必要がある。(受講者定員は全体で30名。2021年度の出願倍率は12.1倍。)
 ※本学大学院における公認心理師カリキュラム開設は当分の間実施しない。

本学で修得した単位は、その他以下の資格取得のために活用することができる。

- ▶ 学芸員資格
- ▶ 社会教育主事任用資格
- ▶ 社会福祉主事任用資格
- ▶ 介護教員講習会の対応科目



社会に向けた教育

特別な学生支援

誰もが心地よく学べるために特別な支援が必要な学生への学習支援

本学では、障がいのある学生についても学習機会が阻害され不利益が生じることのないよう、様々な学習支援体制の整備を進めている。例えば、視覚障がい等により印刷教材を読むことが困難な方への支援として、希望者にはパソコン等での読み上げ用に印刷教材のテキストデータを提供している。また、聴覚障がい等がある学生への支援としてテレビ授業科目における字幕番組を提供している。2021年度第2学期に字幕を付して放送を行った授業は137科目あり、これは全テレビ科目の約83%に当たる。特別講義についても35科目全てに字幕

を付して放送を行った。また、インターネット配信では、新たに4ラジオ科目の字幕視聴が可能になった。さらに、単位認定試験時には、ハンディキャップの程度に応じて、特別措置を講じている。例えば、2021年度第2学期単位認定試験における音声出題の対象科目数は67科目で、対象となった学生数は延べ81名であった。また、点字での出題対象科目数は28科目であり、対象となった学生数は延べ29名であった。

学生の研究成果の公開

本学(学部)では、学生が指導教員から直接、指導を受ける機会を提供するため、卒業研究を開設しており、毎年多くの学生が履修している。そこで2007年度から、卒業研究の履修を将来希望する学生への情報提供として、卒業研究のテーマ一覧と、研究成果である卒業研究報告書の公開を、キャンパスネットワークホームページで開始した。

2021年度は、2020年度の「卒業研究報告書テーマ一覧」と「卒業研究報告書(全文)」28点をシステムWAKABAで公開した。

大学院については、修士論文を基にした学生論文集「Open Forum(放送大学大学院教育研究成果報告)」を2005年度から刊行している。在学生や今後の入学者への情報提供のほか、大学から社会に向けた情報発信、教員の自己点検・自己評価、修士課程の教育研究内容が具体的に見える資料として利用されることを目的としている。2021年3月刊行の第17号には2019年度修了生全319名の研究成果の中から、論文11点、研究ノート42点が掲載されている。

なお、「Open Forum(放送大学大学院教育研究成果報告)」については、第17号をもって冊子体での刊行を終了し、2020年度修了生よりオンラインでの発信を目指すことになった。また、2020年度修了生より各プログラムで選ばれた修士論文を、システムWAKABAで閲覧できるようになっている。

ICTを活用した教育の支援

全国各地に分散する本学学生の修学をサポートするため、本学では教務情報システム(システムWAKABA)などの各種情報システムのサービスをインターネット上で提供している。システムWAKABAは、各学生の学籍情報や履修状況の閲覧、学生生活における各種情報の取得、履修科目の学修を支援するなど、在学生のためのポータル(入口)サイトとして2009年から機能している。加えて、学生全員にメールアドレスが割り振られ、修学に関連する相互連絡を行うことができる。

また、放送授業の履修では、各学期内の決められた期間に1回、担当教員により出題される問題に解答し指導を受ける通信指導が必須となっている。解答は一部の科目を除きシステムWAKABA上で提出することができ、通信指導に合格することによって単位認定試験の受験資格が得られる。学部生の卒業研究及び大学院生の研究指導において、研究の方向性の決定や論文執筆指導等のために、定期的に教員と学生で打合せやゼミを実施している。2020年度以降については新型コロナウイルス感染拡大防止のため、原則Web会議システム等により指導を行ってきた。

BSキャンパスex(ch.231)

生涯学習支援番組

本学は、2018年10月から生涯学習支援のBS231チャンネルを開設し、人生100年時代における社会人の多様な学び直しのニーズに応え、実践的な知識の基礎、職業的能力の向上に資する番組により「学び直し」のきっかけにつながる生涯学習支

援番組を放送している。

2021年度は、新規164番組を含む、全529番組の生涯学習支援番組を放送した。



2021年度の新規放送番組

16番目の授業	ユーザ調査法 心理学概論～その先に広がる世界～ 「日本語リテラシー」と「日本語学入門」のあいだ 「古い」の創造性～くるる即興劇団の挑戦～ 考古学・日本の古代中世～世界遺産・北の縄文文化を読み解く	数理・データサイエンス・AI リテラシー講座 導入 第1回～第8回 リテラシー講座 基礎 第1回～第8回 リテラシー講座 心得 第1回～第8回 専門講座 AIプロデューサー～人とAIの連携～ 第1回～第8回
スペシャル講演	マイクロ・ナノデバイス研究と社会貢献 暮らしの中の「面積」と数学 カミュ「ペスト」を読む 心理学と脳科学から人の生涯発達を学ぶ 化学結合を考える 健康寿命と身体活動～生涯を自立して過ごすために～ 「現代社会」と子どもの遊び 哲学とは何か?～プラトン「国家」の問いと答え～ これからの日本農業を考える～農業経営研究の視点から～ 正義と公正の心理学	データサイエンスの技術 ニューラルネットワーク概論 第1回～第4回 機械学習概論Ⅰ 第1回～第4回 小学校プログラミング教育(実践編) 第1回～第3回 中学校・高等学校プログラミング教育(導入編) 第1回～第3回 231オーディトリウム ～米仏映画黄金期への招待～「素晴らしき哉、人生!」 ～米仏映画黄金期への招待～「キング・コング」 ～米仏映画黄金期への招待～「天井棧敷の人々(第一部)」 ～米仏映画黄金期への招待～「天井棧敷の人々(第二部)」
“科学”からの招待状	新世代の有機合成～生命の起源に迫る! 不斉自己触媒反応～ 新世代の有機合成～環境調和型有機触媒が拓くグリーンケミストリー～ 熊本地震 6年目の真実と教訓 前編、後編 大統合自然史 第1回～第6回	特別番組 新型コロナウイルス感染症こまごまわかった～放送大学オンライン講演会～ 地球史と地球観の変化～放送大学オンライン講演会～ 社会的距離をとるとのこと～コロナ禍の社会心理学～ 放送大学オンライン講演会～ データサイエンス 番組活用ガイド 放送大学「エキスパート」履修ガイド 放送大学の歩みとこれから～ビヨンド・コロナ時代の役割～ 放送大学 学び方ガイダンス 放送大学情報コース 学びはじめ ますます充実 放送大学のオンライン授業
BSキャンパスex特集	シリーズ海と日本 東京湾の歴史 シリーズ海と日本 東京湾の開発 シリーズ海と日本 日本の沿岸海洋過程 読みたいに読める図書館 第1回、第2回 トップアスリートと学ぶ 人生との向き合い方 デジタル社会の課題と展望～DXへの道～ 日本人は疫病とどう闘ってきたのか 前編、後編 考古・歴史・文化の今昔～蘇る「兼高かおる世界の旅」と共に～ペル編①、② 感染症と人類～パンデミックを考える～ 第1回、第2回 大学の遠隔教育はどこへ向かうのか 1、2 現代的課題とレジリエンス～人類の進化と多様性から考える～ 前編、後編	学習センターめぐり 地域に根ざした学び舎～北海道・宮城・茨城～ 多彩な仲間が集う学び舎～長野・香川・三重～
デジタル社会のデータリテラシー 単元1A～単元8C		学位記授与式 2021年度放送大学学位記授与式 放送大学アーカイブス・知の扉 学力と学習支援の心理学('14) 日本語からたどる文化('11) 世界の中の日本('15) 人格心理学('15) 障害を知り共生社会を生きる('17) パレスチナ問題('16)



▶放送大学の歩みとこれから～ビヨンド・コロナ時代の役割～

新型コロナウイルスの影響により、各大学でオンラインによる遠隔教育の整備が進んでいる。1985年から放送による授業を行っている放送大学では、コロナ禍にどう対応し、今後どういった教育を提供していくのか。岩永学長を中心に、放送大学の果たしてきた役割やこれからの大学教育への期待について熱く語る。



▶“科学”からの招待状 熊本地震 6年目の真実と教訓(前編・後編)

2016年に起きた熊本地震。日本で起きた内陸型の活断層地震において、マグニチュード6.5以上の地震の直後に同じ場所でさらに大きな地震が発生するという初めての事例であった。これまでの地震対策に大きな課題を突き付けたあの日から6年、研究者たちがたどり着いた熊本地震の真実とは…。前後編の2回シリーズで考える。

キャリアアップ支援認証制度

本学が開設する公開講座等により体系的に編成された講習を修了した方に対して独自の認証状を発行する「キャリアアップ支援認証制度」を実施している。本制度は、様々なニーズに応え受講者のキャリアアップに資する講座を柔軟な仕組みで提供するものであり、本学学生でなくても受講できる。また、修了者には、認証状の他、デジタルバッジを発行する。2021年度に

は、「AI戦略2019」を踏まえて数理・データサイエンス・AI人材の育成に資することを目的としたインターネット配信公開講座「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)講座」に加え、「小学校プログラミング教育 実践編」・「中学・高校プログラミング教育 導入編」を開講した。

インターネット配信公開講座

本学のキャリアアップ支援認証制度に係る公開講座及び生涯学習支援番組の一部をインターネットにて配信する「インターネット配信公開講座」を2020年に開始した。2021年度においてはキャリアアップ支援認証制度10講座、生涯学習支援番組60講座を配信した。

単位互換の取り組み

本学は、「他大学との単位互換の推進により、わが国の大学教育の改善に資すること」を設置目的の一つに掲げている。本学と単位互換協定を締結している大学及び短期大学は 406 大学あり、日本国内の全大学・短期大学の約 36% にのぼる。さらに 11 大学院、16 校の高等専門学校とも単位互換協定を締結しており(2021 年 11 月1日現在)、大学等から受け入れる学生数は年間で約 4,700 名(延べ約 10,000 科目)に達する。

ら単位互換制度の運用に係る基本的な考え方が示された。本学では、基本的な考え方に則り単位互換を推進することによって、多様で柔軟な教育プログラムの編成(文理横断・学修の幅を広げる教育等)や大学の多様な「強み」の強化など、わが国の大学等の教育課程の充実に寄与している。

2021年度には、新たに10校の大学等と単位互換協定を締結し、協定締結校は合計439校となった。

2021年度に締結した単位互換協定締結校		
森ノ宮医療大学大学院	大分県立看護科学大学	大分短期大学
東九州短期大学	清泉女学院短期大学	岡山商科大学
大阪女学院大学	大阪女学院短期大学	星城大学大学院
久留米工業高等専門学校		

平成 30 年 11 月 26 日の第 119 回中央教育審議会総会で取りまとめられた「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)」において「複数の大学等の人的・物的リソースを効率的に共有することで、一つの大学では成し得ない多様な教育プログラムを提供することができるよう、単位互換等の制度運用の改善を行うことも必要」と記載されたことを受け、国が

専修学校との連携協力

本学では、専修学校との連携協力として、専修学校に在学しながら本学にも入学し、本学の科目を併修する制度を実施している。時間と場所を問わずに学ぶことのできる本学の特徴を活かし、専修学校での学習と組み合わせる学べ、本学卒業により学士(教養)の学位を取得することが可能である。

2021年度には、新たに5校の専修学校と連携協力の覚書を締結し、連携協力校は合計59校となった。

2021年度に締結した連携協力校(専修学校)	
鹿児島県医療法人協会立看護専門学校	東京栄養食糧専門学校
京都調理師専門学校	日本工科大学校
京都製菓製パン技術専門学校	

特別講義

特別講義では、各学問分野の第一人者が、その学問について深く掘り下げて講義を行っており、テレビ講義は生涯学習支援番組のシリーズの1つとしてBS231チャンネルで放送している。

2021年度放送の特別講義		
講義題目名	出演講師 *開設当時の肩書	メディア
「風狂を生きる精神 ～一休・蕭白からアラキーまで～」	詩人 林 浩平	テレビ
マヤの宇宙観～聖なる時間と十字架～	立教大学名誉教授 実松 克義 放送大学准教授 佐藤 仁美	テレビ
『おくのほそ道』の真髓 ～芭蕉自筆本に基づく新研究～	放送大学教授 魚住 孝至	テレビ
笑いの哲学 ～コントで分析～	日本笑い学会会長、関西大学人間健康学部教授 森下 伸也	テレビ
年縞が語る地球環境史	国際日本文化研究センター名誉教授・ ふじのくに地球環境史ミュージアム館長 安田 喜憲	テレビ
第九を楽しむ 放送大学・ベートーヴェン交響曲第九演奏会～東京藝術大学奏楽堂～	千葉大学教授・作曲家 山本 純ノ介 横浜国立大学名誉教授 茂木 一衛	テレビ
文人精神の系譜―与謝蕪村から吉増剛造まで―	恵泉女学園大学特任教授・詩人 林 浩平	テレビ
森鷗外と明治の青春―『青年』を中心に―	放送大学教授 島内 裕子 森鷗外記念会顧問・跡見学園理事長 山崎 一穎	テレビ
薩摩硫黄島の熊野三山と『平家物語』	國學院大學教授 野中 哲照	テレビ
アクティブシニアのICT活用生活	同志社大学客員教授 関根 千佳 放送大学教授 広瀬 洋子	テレビ
公共人類学―人類学の社会貢献―	東京大学名誉教授・帝京平成大学教授 山下 晋司	テレビ
共に生きる社会を目指して ～「医療的ケア児」をどう支えるのか～	ひばりクリニック院長・NPO法人うりずん理事長 高橋 昭彦	テレビ
地域包括ケアの理論と実践	慶應義塾大学名誉教授 田中 滋 東京大学特任教授 辻 哲夫 放送大学教授 田城 孝雄	テレビ
セクシュアル・マイノリティとしての幸せな暮らし ～本当は豊かな性のあり方～	東京大学大学院専任講師 石丸 径一郎	テレビ
女性アスリートの育成と支援、その課題	順天堂大学大学院教授 小笠原 悦子	テレビ
気仙沼ESDの軌跡:持続可能な社会の創造をめざして	東京大学海洋ライアンス海洋教育促進研究センター 特任研究員(主幹研究員) 及川 幸彦	テレビ
摩擦の世界	青山学院大学教授 松川 宏 筑波大学准教授 氏家 恒太郎 東京大学生産技術研究所教授 川勝 英樹	テレビ
ブラックホール ―ばく大なエネルギーの発生源―	東京大学教授 牧島 一夫 東京大学特別栄誉教授 梶田 隆章 放送大学茨城学習センター元所長 横沢 正芳	テレビ
ノーベル賞科学者の軌跡Ⅰ 私が感化された教育とは	名古屋大学特別教授・名古屋大学素粒子宇宙起源研究機構長 益川 敏英 東京大学特別栄誉教授・東京大学宇宙線研究所長 梶田 隆章	テレビ
ノーベル賞科学者の軌跡Ⅱ どう鍛えられ研究を深めたか	名古屋大学特別教授・名古屋大学素粒子宇宙起源研究機構長 益川 敏英 東京大学特別栄誉教授・東京大学宇宙線研究所長 梶田 隆章	テレビ
トップアスリートのメンタルに学べ	スポーツメンタルトレーニング上級指導士・ ソウル五輪シクロデュエット銅メダリスト 田中 ウルヴェ 京	テレビ
エンジニアが映像で挑む!～トップアスリート強化～	国立スポーツ科学センタースポーツ科学研究部専門研究員 三浦 智和	テレビ
イギリスの科学教育に学ぶ	東京工業大学名誉教授 市村 禎二郎 東京工業大学名誉教授・津田塾大学客員教授 酒井 善則	テレビ
正確な時計は基礎科学を開く窓	国立研究開発法人情報通信研究機構 理事 細川 瑞彦 国立研究開発法人情報通信研究機構 時空標準研究室長 花土 ゆう子	テレビ

2021年度放送の特別講義

講義題目名	出演講師 *開設当時の肩書	メディア
ゆるくて楽しい歩行圏コミュニティ ～富山市・高齢社会デザイン開発プロジェクト～	富山大学大学院准教授 中林 美奈子 放送大学教授 田城 孝雄	テレビ
海底に探るエネルギー資源～日本海・メタンハイドレート～	明治大学研究・知財戦略機構ガスハイドレート研究所代表 松本 良	テレビ
ヒマラヤ高所に生きる人々の生活と健康 ～高所適応とグローバル化による攪乱～	放送大学特任教授 稲村 哲也 京都大学連携教授 奥宮 清人	テレビ
脳波で動く 1/f ゆらぎ癒しロボット	茨城大学名誉教授 白石 昌武	テレビ
遷移金属触媒の魔法の力 ～サステイナブルな21世紀への鍵～	パデュエ大学特別教授 根岸 英一	テレビ
ウナギ 大回遊の謎を追う	日本大学教授 塚本 勝巳	テレビ
微生物が作る究極の薬を求めて 大村智博士が語るノーベル賞への歩み	北里大学特別栄誉教授 大村 智 女優、科学番組プログラム アシスタント 黒田 有彩	テレビ
分子の履歴を読み解く ～地球環境の指標・アイトポマー～	東京工業大学地球生命研究所特任教授 吉田 尚弘 フリーアナウンサー 岩田 まこ都	テレビ
身心一体科学からの健康寿命延伸 ～日本文化を先端科学につなぐ～	東京大学名誉教授 跡見 順子 能楽師 森 常好 フリーアナウンサー 高松 祥子	テレビ
手本をはなれて ～“想画”を生んだ奥出雲の地から～	前島根学習センター所長 佐々 有生 農業 青木 宗一 声優、ナレーター 加藤 沙織 声優 宮林 康 声優 青木 強	テレビ
レゲット教授が見た日本 ～ノーベル賞科学者による異文化交流～	イリノイ大名誉教授 アンソニー・レゲット 放送大学教授 松井 哲男 京都大学名誉教授 佐藤 文隆 前東京大学教授 福山 寛 アナウンサー 青谷 優子	テレビ
研究不正と研究倫理	放送大学教授 児玉 晴男	ラジオ
DV被害者の声～求められる支援のありかとは～	愛知県立大学名誉教授 須藤 八千代	ラジオ
病・人・社会(1)～統合失調症が教えること～	東洋大学教授 白石 弘巳	ラジオ
病・人・社会(2)～人を支援する人が受け取るもの～	東洋大学教授 白石 弘巳	ラジオ
困ったら、頼っていいんだよ ～孤立する子どもたちに私たちができること～	NPO法人3keys代表理事 森山 誉恵	ラジオ
医療・健康で地域をつなぐ	大阪産業大学教授 佐藤 真治	ラジオ
現代社会におけるイノベーションの意味	元早稲田大学大学院教授 吉川 智教	ラジオ
終活学 満足して人生を終える	東京医科大学客員教授 長尾 和宏	ラジオ
江戸農書からみる現代農業と日本社会	大阪経済大学学長 徳永 光俊	ラジオ
科学は文化だ ～科学技術週間60年の変遷にみる日本の科学と社会～	日本科学未来館広報・普及課長 富田 知宏 放送大学教授 奈良 由美子 文部科学省人材政策課課長補佐 石橋 一郎	ラジオ
天文学を魅力的に伝えたい	国立天文台准教授 縣 秀彦	ラジオ
ヒューマンインタフェース技術のタネは日常生活のなかにある	放送大学名誉教授 黒須 正明	ラジオ
食の安全と環境汚染物質～メチル水銀を例に～	内閣府食品安全委員会委員長 佐藤 洋	ラジオ
脳と心—分子生物学者がみた精神医学— ①部品の科学と全体としての脳	東京都医学総合研究所 病院等連携研究センター長 糸川 昌成	ラジオ
脳と心—分子生物学者がみた精神医学— ②家族の旅から回復を体験すること	東京都医学総合研究所 病院等連携研究センター長 糸川 昌成	ラジオ
健康社会学的「働き方改革」のすすめ	健康社会学者・文藝家 河合 薫 ラッシュジャパン人事部長 安田 雅彦	ラジオ
脳脊髄液減少症と児童・生徒	国際医療福祉大学熱海病院教授 篠永 正道	ラジオ
「俯瞰科学」で分析 今後100年の人類社会	東京工業大学地球生命研究所特命教授 丸山 茂徳 放送大学プロデューサー 高比良 一道	ラジオ

一般向け講演会

本学で培われた教育並びに研究成果は、広く社会に提供され大学と社会相互のさらなる発展が期待される。本学では、主に全国の学習センターを通じて、一般市民を対象とした公開講演会等を開催し、その知識を社会に還元している。以下にその活動の一部を紹介する。

2021年度公開講演会

所属	講師	テーマ	主催	共催等	方式	日時
学長	岩永 雅也	放送大学の新たなビジョン～現実を見つめ理想をめざす～	大阪SC	大阪SC開設30周年記念講演会	Web	10月30日
生活と福祉	教授 田城 孝雄	コロナ禍における医療的ケアの現状と課題 新型コロナウイルス感染症	静岡SC	東京渋谷SC 目黒区教育委員会	対面とWebの併用	7月31日 1月29日
心理と教育	教授 森 津太子	危機の心理学～コロナ禍という危機を心理学の視点から考える～	佐賀SC	(公財)佐賀県女性と生涯学習財団・佐賀県立図書館	Web	1月23日
社会と産業	教授 李 鳴	保険法と市民生活～生命保険と相続を中心に～	神戸市教育委員会	兵庫SC	対面	11月18日
人間と文化	特任教授 稲村 哲也	人類史的視点からのレジリエンス(危機を生きぬく知)	広報課・京都SC	京都新聞	Web	1月29日
人間と文化	教授 大村 敬一	「人新世」時代のイメイトの挑戦:カナダ極北圏の先住民からの問いかけ	広報課		対面とWebの併用	1月22日
人間と文化	教授 宮本 陽一郎	グローバル時代の英語苦手意識	広報課・東京渋谷SC	日本経済新聞社イベント・企画ユニット	Web	2月12日
情報	教授 青木 久美子	生涯に渡った“個別最適化学習”の可能性 大学の遠隔教育はどこへ向かうのか(放送大学国際シンポジウム)	広報課・東京文京SC	総務課	Web	8月21日 1月8日
情報	教授 中谷 多哉子	情報コース学びはじめ	広報課		Web	11月13日
自然と環境	教授 谷口 義明	イーハトーブの星空で宮沢賢治と銀河鉄道に乗る	広報課・宮城SC	河北新報	Web	2月5日
自然と環境	教授 二河 成男	遺伝子編集技術の安全性と食品への応用	新潟SC	放送大学新潟同窓会	Web	10月3日
岩手SC	所長 西崎 滋	公開講座『自然は法則に従って発展する!』 〈第III部:量子物理学の世界〉第1回	岩手SC		対面とWebの併用	5月19日
		公開講座『自然は法則に従って発展する!』 〈第III部:量子物理学の世界〉第2回	岩手SC		対面とWebの併用	6月2日
		公開講座『自然は法則に従って発展する!』 〈第III部:量子物理学の世界〉第3回	岩手SC		対面とWebの併用	6月16日
		公開講座『自然は法則に従って発展する!』 〈第III部:量子物理学の世界〉第4回	岩手SC		対面とWebの併用	6月30日
		公開講座『自然は法則に従って発展する!』 〈第III部:量子物理学の世界〉第5回	岩手SC		対面とWebの併用	7月7日
山形SC	所長 安田 弘法	～序章～ 大学改革から学んだ人間学	山形SC		対面とWebの併用	11月27日
千葉SC	所長 長澤 成次	今よみがえるナトコ映画 -70年前の映写機による投影-	千葉SC	千葉市教育委員会	対面とWebの併用	2月27日
新潟SC	所長 新村 末雄	～生涯学習のすすめ～ 「学び」を楽しむから「学びなおし」で 各種資格取得、また大学・大学院の卒業・修了まで	佐渡市教育委員会	令和3年度市民大学講座	対面	7月12日
三重SC	所長 清水 真	グリーンケミストリー:四大公害から学ぶ	三重県生涯学習センター	三重SC	対面	8月18日
滋賀SC	所長 平井 肇	世界大学漫遊談	滋賀SC	学友会行事「かいつぶり文化祭」公開講演会	対面	11月7日
鳥取SC	所長 田中 久隆	ものづくりと工学 ものづくりと材料の強さや変形量、加工法 ケニアに大学を! モンゴルの家畜を救え!	鳥取SC	とっとり県民カレッジ連携講座	対面	6月15日 6月29日 12月26日 1月9日
鳥根SC	所長 田坂 郁夫	お天気よもやま話 ー梅雨のはなしー お天気よもやま話	鳥根SC	出雲市	対面	6月12日
			鳥根SC		対面とWebの併用	11月19日
山口SC	所長 岡村 康夫	ストレイシブ～漱石の『三四郎』を読む～ 漱石の『坊っちゃん』を読む～坊っちゃんの無鉄砲と清～ 人情と非人情との間～漱石の『草枕』を読む～	山口SC	山陽小野田市	対面	12月5日 12月12日
徳島SC	所長 石川 榮作	ベートーベン「ハイリゲンシュタットの遺書」と芸術への情熱 ベートーヴェンの「不滅の恋人」にあてた手紙	徳島SC・徳島県立図書館	「まなびの森」講演会	対面	4月24日
			徳島SC・徳島県立図書館		対面	12月25日
高知SC	所長 深見 公雄	海のプラスチック問題を考える ～悪影響の原因とメカニズム、そしてこれからの動き～	高知SC		対面	12月8日
福岡SC	所長 安河内 朗	文明の利器と健康影響	福岡SC・北九州市		対面	1月29日
長崎SC	所長 伊東 昌子	自分らしく生きるために「あなたにもある無意識の偏見」	長崎SC	長崎SCリレー公開講座第3回	Web	9月4日
熊本SC	所長 古島 幹雄	哲学数理 ～新たな学びへの旅立ち	熊本SC		対面	4月18日

オープンコースウェア(OCW)

OCWは「大学等で正規に提供された講義とその関連情報をインターネット上で無償公開する活動」であり、1999年米国マサチューセッツ工科大学(MIT)から始まったものである。学びたい人すべてがいつでも学べる「開かれた大学教育」を目指して設置された本学は、OCWの理念に賛同し、2010年にインターネットによる配信を開始した。

現在、本学で開講する放送授業(テレビ及びラジオ)のほとんどの科目(全15回番組)において、1番組または全15番組を本学学生以外の方にもインターネットにて公開している。また、一部の特別講義も公開している。

2021年度オープンコースウェア科目(全15回分を公開)一覧

テレビ授業科目	
科目名	講師
日本語リテラシー('21)	滝浦 真人
遠隔学習のためのパソコン活用('21)	秋光 淳生/三輪 眞木子
英語で「道」を語る('21)	大橋 理枝/斎藤 兆史
疾病の成立と回復促進('21)	岡田 忍/佐伯 由香
子どもの人権をどうまもるのか('21)	山縣 文治
学習・言語心理学('21)	高橋 秀明
サプライチェーン・マネジメント('21)	松井 美樹
量子物理学('21)	松井 哲男/岸根 順一郎
学校臨床心理学特論('21)	倉光 修
コミュニティがつなぐ安全・安心('20)	林 春男
災害看護学・国際看護学('20)	神崎 初美/西上 あゆみ
教育調査の基礎('20)	藤田 武志/西島 央
新時代の組織経営と働き方('20)	原田 順子/若林 直樹
日本語学入門('20)	滝浦 真人
中国と東部ユーラシアの歴史('20)	佐川 英治/杉山 清彦
身近なネットワークサービス('20)	葉田 善章
場と時間空間の物理('20)	松井 哲男/岸根 順一郎
今日のメンタルヘルス('19)	石丸 昌彦
社会保障の国際動向と日本の課題('19)	埋橋 孝文/居神 浩
教育社会学概論('19)	岩永 雅也
経営情報学入門('19)	木嶋 恭一/岸 眞理子
エネルギーと社会('19)	迫田 章義/堤 敦司
博物館概論('19)	稲村 哲也
Webのしくみと応用('19)	森本 容介/伊藤 一成
生命分子と細胞の科学('19)	二河 成男
宇宙の誕生と進化('19)	谷口 義明
地域コミュニティと教育('18)	玉井 康之/夏秋 英房
博物館情報・メディア論('18)	稲村 哲也/近藤 智嗣
太陽と太陽系の科学('18)	谷口 義明
コンピュータとソフトウェア('18)	辰己 丈夫/中谷 多哉子
地球温暖化と社会イノベーション('18)	六川 修一/向井 人史
住まいの環境デザイン('18)	梅干野 晃/田中 稲子
人体の構造と機能('18)	坂井 建雄/岡田 隆夫
初歩からの化学('18)	安池 智一/鈴木 啓介
レジリエンスの諸相('18)	奈良 由美子/稲村 哲也
現代社会の児童生徒指導('17)	古賀 正義/山田 哲也
家族と高齢社会の法('17)	川島 志保/関 ふ佐子
現代の内部監査('17)	齋藤 正章/蟹江 章
日本の古代中世('17)	佐藤 信/近藤 成一
コンピュータの動作と管理('17)	葉田 善章
物理の世界('17)	岸根 順一郎/松井 哲男
社会福祉への招待('16)	岩田 正美
世界文学への招待('16)	宮下 志朗/小野 正嗣
入門微積分('16)	石崎 克也
環境の可視化('15)	梅干野 晃/中村 恭志

ラジオ授業科目	
科目名	講師
市民自治の知識と実践('21)	山岡 龍一/岡崎 晴輝
社会と産業の倫理('21)	松原 隆一郎/山岡 龍一
ビートルズ de 英文法('21)	佐藤 良明
睡眠と健康('21)	宮崎 総一郎/林 光緒
現代教育入門('21)	岩永 雅也/岩崎 久美子
NPO・NGOの世界('21)	大橋 正明/利根川 佳子
韓国朝鮮の歴史と文化('21)	須川 英徳/三ツ井 崇
リスク社会の家族変動('20)	田間 泰子
ライフステージと社会保障('20)	丸谷 浩介
学校と法('20)	坂田 仰
現代東アジアの政治と社会('20)	家近 亮子
日本の近世('20)	杉森 哲也
AIシステムと人・社会との関係('20)	山口 高平/中谷 多哉子
エントロピーからはじめる熱力学('20)	安池 智一/秋山 良
朝鮮の歴史と社会-近世近代('20)	須川 英徳
健康への力の探究('19)	戸ヶ里 泰典/中山 和弘
思春期・青年期の心理臨床('19)	大山 泰宏
コミュニケーション学入門('19)	大橋 理枝/根橋 玲子
統計学('19)	藤井 良宜
ヘルスリサーチの方法論('19)	井上 洋士
成人の発達と学習('19)	岩崎 久美子
コンピューティング('19)	萩谷 昌己
現代物理の展望('19)	岸根 順一郎/松井 哲男
感染症と生体防御('18)	田城 孝雄/北村 聖
看護管理と医療安全('18)	大島 弓子/飯島 佐知子
日本仏教を捉え直す('18)	末木 文美士/頼住 光子
現代を生きるための化学('18)	橋本 健朗
解析入門('18)	河添 健
心理と教育へのいざない('18)	田中 統治/向田 久美子/佐藤 仁美
福祉政策の課題('18)	大曾根 寛
情報学の技術('18)	中谷 多哉子/辰己 丈夫
環境問題のとらえ方と解決方法('17)	岡田 光正/藤江 幸一
日本文学の名作を読む('17)	島内 裕子
線型代数('17)	隈部 正博
生活リスクマネジメント('17)	奈良 由美子
音楽・情報・脳('17)	仁科 エミ/河合 徳枝
看護学概説('16)	井出 訓/井上 洋士
CGと画像合成の基礎('16)	浅井 紀久夫
政治学へのいざない('16)	御厨 貴/山岡 龍一
音を追究する('16)	大橋 理枝/佐藤 仁美
精神医学特論('16)	石丸 昌彦/広瀬 宏之
計算論('16)	隈部 正博
道を極める-日本人の心の歴史('16)	魚住 孝至

2021年度インターネット無償公開特別講義一覧

テレビ特別講義	
講義名	講師
手本をはなれて ~“想画”を生んだ奥出雲の地から~	佐々 有生/青木 定男
微生物が作る究極の薬を求めて 大村智博士が語るノーベル賞への歩み	大村 智
分子の履歴を読み解く ~地球環境の指標・アイトポマー~	吉田 尚弘
身心一体科学からの健康寿命延伸 ~日本文化を先端科学につなぐ~	跡見 順子
レグgett教授が見た日本 ~ノーベル賞科学者による異文化交流~	アンソニー・レグgett
風狂を生きる精神 ~一休・蕭白からアラキーまで~	林 浩平
マヤの宇宙観~聖なる時間と十字架~ 気仙沼 ESDの軌跡: 持続可能な社会の創造をめざして	実松 克義/佐藤 仁美 及川 幸彦
摩擦の世界 『おくのほそ道』の真髓 ~芭蕉自筆本に基づく新研究~	松川 宏/氏家 恒太郎 魚住 孝至
笑いの哲学~コントで分析~	森下 信也
年縞が語る地球環境史 第九を楽しむ 放送大学・ベートーヴェン 交響曲第九演奏会~東京藝術大学奏楽堂~	安田 喜憲 山本 純ノ介/茂木 一衛
文人精神の系譜 一与謝蕪村から吉増剛造まで一	林 浩平
ノーベル賞科学者の軌跡 I 私が感化された教育とは	益川 敏英/梶田 隆章
ノーベル賞科学者の軌跡 II どう鍛えられ研究を深めたか	益川 敏英/梶田 隆章
森鷗外と明治の青春-『青年』を中心に- エンジニアが映像で挑む! ~トップアスリート強化~	島内 裕子/山崎 一穎 三浦 智和
イギリスの科学教育に学ぶ 正確な時計は基礎科学を開く窓 ゆるくて楽しい歩行圏コミュニティ ~富山市・高齢社会デザイン開発プロジェクト~	市村 禎二郎/酒井 善則 細川 瑞彦/花土 ゆう子 中林 美奈子/田城 孝雄

テレビ特別番組

番組名
科学技術立国への挑戦~理化学研究所の100年を通して~ 「国民科学研究所」はこうして生まれた
科学技術立国への挑戦~理化学研究所の100年を通して~ 科学と科学を結びつける
科学技術立国への挑戦~理化学研究所の100年を通して~ 科学の未来を考える

ラジオ特別講義	
講義名	講師
健康社会学的「働き方改革」のすすめ	河合 薫
脳脊髄液減少症と児童・生徒 「俯瞰科学」で分析 今後100年の人類社会	篠永 正道 丸山 茂徳
研究不正と研究倫理 DV被害者の声 ~求められる支援のありかたとは~	児玉 晴男 須藤 八千代
科学は文化だ -科学技術週間60年の変遷にみる日本の科学と社会-	富田 知宏/奈良 由美子
通信教育で人生が変わった ~女優・作家 中江有里~	中江 有里
病・人・社会(1) ~統合失調症が教えること~	白石 弘巳
病・人・社会(2) ~人を支援する人が受け取るもの~	白石 弘巳
天文学を魅力的に伝えたい 箏曲の世界 ~宮城道雄の残したもの~ 困ったら、頼っていいんだよ ~孤立する子どもたちに私たちがができること~	縣 秀彦 安藤 政輝 森山 誉恵
医療・健康で地域をつなぐ 現代社会におけるイノベーションの意味 オリンピックボランティアの世界① 誕生と貢献の歴史	佐藤 真治 吉川 智教 市居 愛
オリンピックボランティアの世界② 東京で夢をかなえる 編集者漱石①編集者子規 編集者漱石②朝日新聞の時代 終活学 満足して人生を終える 江戸農書からみる現代農業と日本社会 ヒューマンインタフェース技術のタネは 日常生活のなかにある	市居 愛 長谷川 郁夫/草光 俊雄 長谷川 郁夫/草光 俊雄 長尾 和宏 徳永 光俊 黒須 正明
食の安全と環境汚染物質 ~メチル水銀を例に~ 脳と心-分子生物学者がみた精神医学 ①部品の科学と全体としての脳 脳と心-分子生物学者がみた精神医学 ②家族の旅から回復を体験すること	佐藤 洋 糸川 昌成 糸川 昌成

放送大学における研究

学習教育戦略研究所における研究

学習教育戦略研究所は、学習や教育、放送大学学園の経営について、教員と事務職員とが協働で課題解決に向けた活動を行う新しい形の研究組織として2018年度に設置された。本学園が保有する膨大な学習・教育情報の分析等を通じて、最先端のICT技術も含め、より効果的な学習・教育方法の調査・研究や、本学園の経営改善に資する各種情報の収集・分析、

それら成果の活用等を行うことにより、変化する社会ニーズへ迅速に対応し、本学園や我が国の高等教育の充実発展に寄与することを目的としている。

2021年度には、教職員からの提案を受け、次の研究課題を実施した。

研究課題(2021年度実施採択順)

所属	職名	氏名	研究課題
心理と教育	准教授	佐藤 仁美	臨床心理士・公認心理師要請における、通信制大学の役割メディアを介した、学生-教員の双方向の授業体制づくりに向けて
生活と福祉	教授	戸ヶ里 泰典	人を対象とする研究倫理に関する教育プログラムの開発の試み
情報	教授	青木 久美子	2020年度第1学期面接授業のWeb会議方式等による代替開講の実施状況に関する調査研究
心理と教育	教授	森 津太子	「心理学実験」のWeb面接授業を継続化するための調査とそれに基づくインフラの整備・拡充
情報	教授	山田 恒夫	マイクロレデンシャル実現に必要なデジタルバッジの高度化および機関間連携システムの構成に関する研究
情報	教授	芝崎 順司	データサイエンスのモデルカリキュラム準拠リテラシーレベルの準備及び補完学習としてのリメディアル教育のニーズや課題に関する調査
人間と文化	特任教授	稲村 哲也	大学博物館設立の意義・方法・課題に関する実践的研究
公認心理師教育推進室	教授	桑原 知子	放送大学における公認心理師教育の推進に関する研究
生活と福祉	教授	関根 紀子	生涯学習のための健康管理リスクマネジメントに関する調査研究—COVID-19による健康・生活・学習を巡る意識と行動の変容—
	副学長	菊川 律子	放送大学における聴覚障がい学生への情報保障に関する研究：音声認識システムとボランティアの活用によるラジオ授業の字幕化
情報	教授	浅井 紀久夫	インターネット配信公開講座データサイエンスシリーズの動向調査
総合戦略企画室	主任	梶原 佳奈子	出願者・学生の特徴を広報・経営に生かすための縦断的分析とダッシュボードの作成
人間と文化	特任教授	稲村 哲也	モデル展示制作による大学博物館の展示方法の開発と研究
情報	教授	辰己 丈夫	若年層への魅力的なネット動画の制作と告知方法の検討と実証
宮城SC	特任教授	高橋 満	放送大学で学ぶことの意義：ケイパビリティ・アプローチによる分析の試み

放送大学研究年報

『放送大学研究年報』は本学の専任教員等が日頃の研究成果を発表する場である。2021年度版(第39号)は2022年3月に発行された。

2021年度放送大学研究年報(第39号)著者及び論題一覧

著者	論題
戸ヶ里 泰典、橋爪 洋美、関根 紀子、波田野 茂幸、安藤 優樹	国内人文・社会科学系学協会機関紙における人を対象とする研究倫理への対応の実態—学協会機関紙のウェブサイト上の情報提供内容より—
山田 知子	東京市方面委員の来歴からみるその「社会性」の構造—どのような人々であったのか—
佐藤 仁美	心理臨床における実習系Web授業づくりの試み ～交流の場の意味～

2021年度放送大学研究年報(第39号)著者及び論題一覧

著者	論題
稲村 哲也、近藤 智嗣、鶴見 英成、牧野 由佳、五藤 素直	大学博物館の設立に向けて
辻 靖彦、秋葉 広人、芝崎 順司	大学生を対象としたデータサイエンスに関する数学的基礎能力の測定とニーズ及び影響要因の調査
佐藤 和夫	エーリヒ・ケストナーの後半生と「小人」の物語
高橋 秀明、三輪 眞木子、仁科 エミ、柳沼 良知、秋光 淳生	放送大学におけるデジタル・リテラシー教育の展開：コロナ災禍のもとで実践された面接授業による一考察
北原 知典	同時双方向方式のオンライン授業におけるTA(Teaching Assistant)の役割とその可能性
島内 裕子	各務支考『つれづれの讃』にみる『徒然草』の新しい読み方

外部資金による研究

本学では、専任教員が数多くのテーマのもと積極的に研究を行い、その成果を世に送り出している。研究の支援・推進のために、放送大学教育振興会等他機関からの助成基金を積極

的に得て研究を進めている。2021年度に放送大学教育振興会・日本学術振興会等の助成で実施した研究テーマは以下の通りである。

放送大学教育振興会助成による研究：多様なメディアの研究開発、教材及びシステム等の研究開発(採択順)

所属	職名	氏名	研究課題名
人間と文化	特任教授	稲村 哲也	博物館と連携した遠隔教育システムの確立に向けた拠点形成
自然と環境	准教授	大森 聡一	インターネットを利用した機器分析実験教育システムの開発
自然と環境	教授	石崎 克也	統計学・データサイエンス教育のための教材開発に関する研究～印刷教材及びweb教材の改善・eBookとの共存の検討～

放送大学教育振興会助成による研究：機関特別推進研究等に係る助成

所属	職名	氏名	研究課題名
	副学長	近藤 智嗣	数理・データサイエンス・AI講座の充実及び普及に向けた調査事業並びに高等学校との連携協力推進事業
	副学長	近藤 智嗣	学習教育戦略研究所における研究の推進「生涯学習のための健康関連リスクマネジメント—COVID-19による健康・生活・学習を巡る意識と行動の変容—」

日本学術振興会の科学研究費助成事業による研究(氏名は代表者)(研究種目・研究終了予定日順)

所属	職名	代表者氏名	研究種目	研究課題名
自然と環境	教授	谷口 義明	基盤A	スーパーウインドによる銀河と銀河間物質の共進化
社会と産業	特任名誉教授	柳原 正治	基盤B	外交官、国際法学者、そして裁判官としての安達峰一郎に関する総合的研究
情報	教授	中川 一史	基盤B	国語科「読むこと」領域の学習者用デジタル教科書を活用した学習指導モデルの開発
人間と文化	教授	野崎 歓	基盤B	「作者」の死と再生：フランス・ロマン主義文学の現代的意義をめぐる総合的研究
情報	教授	加藤 浩	基盤B	学習者の表出動作から心的状態を推定し集計・フィードバックするシステムの開発
心理と教育	教授	森 津太子	基盤B	ナッジとしての"見つめる目"効果：仮想および実空間における社会実験
愛知SC	特任教授	氏家 達夫	基盤B	胎児期に原発事故を経験した福島の子どものたちの小学校への適応についての発達的研究
心理と教育	特任教授	小川 正人	基盤B	労働法制改編に伴う教員の新たな勤務時間管理方策の影響と課題に関する調査研究
生活と福祉	教授	戸ヶ里 泰典	基盤B	看護実践に特化した健康生成論とストレス対処力概念SOCに関する応用モデルの開発
人間と文化	教授	河原 温	基盤B	中近世ヨーロッパ社会における合意形成の起源と展開—合議制・代議制の理念と現実—

日本学術振興会の科学研究費助成事業による研究(氏名は代表者)(研究種目・研究終了予定日順)

所属	職名	代表者氏名	研究種目	研究課題名
情報	教授	仁科 エミ	基盤B	スマートフォンの負の影響を緩和するモバイルハイパーソニックシステムの開発と評価
生活と福祉	教授	山内 豊明	基盤B	看護臨床アセスメントモデル構築と人工知能による深層学習に向けた学際的探索研究
情報	教授	山田 恒夫	基盤B	公正で個別最適化された生涯学習を実現するデジタル・エコシステムの研究
自然と環境	教授	岸根 順一郎	基盤B	カイラリティが誘導するフォノン・スピン・フォトン交差結合の理論
人間と文化	特任教授	稲村 哲也	基盤B	山岳高所における環境・動物・人の相互作用のダイナミズムー中央アンデスを中心に
奈良SC	特任教授	井上 容子	基盤C	視覚特性を考慮した快適タスク&アンビエント照明の究明と実用化に向けた設計法の提案
人間と文化	教授	滝浦 真人	基盤C	近現代日本語におけるポライトネス意識の通時的変化の研究:敬語と授受表現をめぐって
客員	客員教授	内堀 基光	基盤C	サラワク・イバン社会における居住空間の現代的再編成に見る社会的強靱性
心理と教育	特任教授	田中 統治	基盤C	高等学校の「学びの基礎診断」によるカリキュラム・マネジメントの特徴と課題
生活と福祉	教授	下夷 美幸	基盤C	子と離別した父親の生活実態と扶養意識に関する実証的研究
情報	特任教授	三輪 眞木子	基盤C	高齢者のヘルスリテラシー向上のための教材開発と教育方法の提案
長崎SC	特任教授	山下 敬彦	基盤C	汚損湿潤がいし表面における放電の進展を考慮した動的放電モデルの開発
心理と教育	准教授	向田 久美子	基盤C	児童書に見る文化的スクリプトとその媒介者としての親:日中米の比較研究
心理と教育	教授	進藤 聡彦	基盤C	ルールと操作的知識の構造化が教科学習の促進に及ぼす効果と教材開発
情報	教授	中谷 多哉子	基盤C	概念モデルに基づくアクターのアクセス権限を考慮した要求獲得に関する研究
情報	教授	伏見 清香	基盤C	被災館支援システムによるミュージアムの情報と空間の関係性と相互作用に関する研究
東京文京SC	特任教授	林 徹	基盤C	フォーリナー・トークから見るドイツのトルコ系移民コミュニティの言語的特徴
情報	准教授	辻 靖彦	基盤C	大学教員の大規模実態調査に基づくICT活用度診断モデル構築の実証的研究
自然と環境	教授	石崎 克也	基盤C	差分方程式の複素領域における研究とその応用について
情報	教授	浅井 紀久夫	基盤C	技能伝承のための分散協調訓練での深層学習による触力覚再現の個人化と再校正への対応
生活と福祉	准教授	川原 靖弘	基盤C	骨伝導を利用した超広帯域音響による深部脳賦活法の研究と実用検討
心理と教育	教授	岩崎 久美子	基盤C	新たな社会教育主事講習へのファシリテーション技法導入の有効性に関する基礎的研究
奈良SC	特任教授	井上 容子	基盤C	生活シーンと視覚特性の加齢変化を考慮した一日を通した照明の適正化手法の究明と提案
情報	准教授	葉田 善章	基盤C	生涯学習における履歴に基づく教育サービス改善を目的とした学習解析手法に関する研究
自然と環境	教授	加藤 和弘	基盤C	緑地に隣接する建築物のありかたが鳥類による緑地の利用に及ぼす影響
情報	准教授	森本 容介	基盤C	xAPIによる学習履歴データの記述とその利活用に関する研究
生活と福祉	准教授	川原 靖弘	国際A	脳機能解析に基づくセマンティック騒音評価システム
社会と産業	准教授	白鳥 潤一郎	若手B	先進国間協調体制の形成と変容:主要国首脳会議における日本外交、1975-1983
人間と文化	教授	大村 敬一	新学術領域研究 (研究領域提案型)	アメリカ大陸極北圏での人類の認知技能の発達に関する民族認知考古学的研究
情報	教授	加藤 浩	挑戦	主体的問題解決能力育成のための漸進的目標形成モデルを用いた学習支援システムの構築
人間と文化	特任教授	稲村 哲也	挑戦	山岳高所・遊牧地域における遠隔教育の可能性
人間と文化	特任教授	稲村 哲也	開拓	遊牧・山岳・先住民地域におけるリモート教育のモデル構築に関する実践的研究

その他、民間研究財団等の助成で行っている研究

その他外部資金助成による研究(本学の教員が代表のもののみ)

所属	職名	氏名	助成元	資金名・事業名等	研究課題名
情報	教授	青木 久美子	公益財団法人 北野生涯教育振興会	生涯教育研究助成金	生涯学習を可視化する デジタルクレデンシャルの調査研究
心理と教育	教授	森 津太子	公益財団法人 日本心理学会	新型コロナウイルス感染拡大に 関連した実践活動及び研究	遠隔での心理学教育に関する需要調査と インフラの構築 —心理学実習を中心に—
生活と福祉	教授	田城 孝雄	公益財団法人 在宅医療助成勇美記念財団	自主事業	在宅医療・地域包括ケアシステム推進のため の人材育成研修
宮城SC	特任教授	高橋 満	公益財団法人 北野生涯教育振興会	生涯教育研究助成金	新しい博物館教育論にもとづく デジタル学習支援法の開発と評価

研究成果の発表・普及【書籍】

本学の専任教員・学習センター所長は、研究の成果を発表し共有・普及するために、印刷教材以外にも、多数の書籍編集・執筆、及び辞書・辞典などの編纂を行っている。これらの書籍は、より専門的かつ先進的な内容を含んでおり、各教員が日々取り組んでいる独自の研究テーマや研究活動の成果である。

2021年度研究成果の発表・普及【書籍】

所属	氏名	書籍名、辞書・辞典名	出版社	出版年月
生活と福祉	川原 靖弘	人間情報学：快適を科学する、板生 清(監修) (担当:共著、範囲:行動とコミュニケーションにおける人間情報)	近代科学社	2021年12月
	奈良 由美子	レジリエンスの心理学——社会をよりよく生きるために (小塩真司、平野真理、上野雄己編著)、(担当:分担執筆、 範囲:レジリエンスと社会(第13章)(128-137))	金子書房	2021年9月
		復元力と幸福経営を生むリスクマネジメント(上田和勇編著)、 (担当:分担執筆、範囲:「第2章 ヒトのレジリエンスの現代的 意義ー共感とリスクコミュニケーションの観点から」(53-63))	同文館出版	2021年12月
		自然災害科学・防災の百科事典(日本自然災害学会編)、 (担当:分担執筆、範囲:15章 国連仙台防災枠組 4つの優先行動(678-679))	丸善出版	2022年1月
		レジリエンス人類史(稲村哲也、山極壽一、清水展、阿部健一編著)、 (担当:分担執筆、範囲:「災害レジリエンス」(i-v)、「COVID-19災害を 乗り越えるーリスクコミュニケーションによる共考と共生」(366-380))	京都大学学術出版会	2022年3月
	山内 豊明	まんがでわかるみんなの遺伝子の謎、 監修:山内豊明、訳:山崎瑞花、著:クラウディア・フランドリ	西村書店	2021年5月
		福井県立大学ブックレット④ 共生社会のWell-beingに向けた 看護福祉学のイノベーションとしての健康生活科学	福井県立大学	2021年11月
心理と教育	苑 復傑	よくわかる高等教育論、橋本鉦市、阿曾沼明裕 編著 (担当:分担執筆、範囲:「大学教育とテクノロジー」)	ミネルヴァ書房	2021年4月
	大山 泰宏	心理学的支援法	遠見書房	2021年4月
	小川 正人	地方教育行政とその空間、(担当:共編者(共編著者)、範囲:II部4章 新たな中間組織の 模索ー和歌山県における教育事務所の廃止と教育支援事務所の試み、第II部総括 近年の地方行政環境の変容と県ー市町村関係の新たな課題、第III部13章 地域限定 採用による中核教員の育成ー北海道)	学事出版	2022年2月
	進藤 聡彦	思考力を育む「知識操作」の心理学、工藤与志文、 進藤聡彦、麻柄啓一(担当:共著)	新曜社	2022年2月
	波田野 茂幸	インクルーシブ教育システム時代の就学相談・転学相談: 一人一人に応じた学びの実現を目指して、宮崎英憲、市川裕二、 緒方直彦、全国特別支援教育推進連盟(担当:分担執筆)	ジアース教育新社	2021年7月

2021年度研究成果の発表・普及【書籍】

所 属	氏 名	書籍名、辞書・辞典名	出版社	出版年月
社会と産業	白鳥 潤一郎	沼田貞昭オーラル・ヒストリー、「核不拡散体制の成立と安全保障政策の再定義」プロジェクト	政策研究大学院大学	2022年2月
	原 武史	一日一考 日本の政治	河出書房新社	2021年6月
		歴史のダイヤグラム	朝日新聞出版	2021年9月
		最終列車	講談社	2021年12月
	原田 順子	港湾経済研究 人物編：学会創立60年の歩み、日本港湾経済学会創立60周年記念事業編集実行委員会 (担当:分担執筆、範囲:「原田順子」129-130)	日本港湾経済学会	2021年8月
	柳原 正治	国際法秩序とグローバル経済、(担当:共編者(共編著者))	信山社	2021年9月
		国際法からみた領土と日本、(担当:共編者(共編著者))	東京大学出版会	2022年3月
山岡 龍一	よくわかる政治思想、野口雅弘、山本圭、高山裕二 (担当:分担執筆、範囲:「ロック」(28-29)、「寛容」(148-149)、「リアリズム」(168-169))	ミネルヴァ書房	2021年4月	
	Locke on knowledge, politics and religion: new interpretations from Japan, 下川潔, Anstey, Peter R (担当:分担執筆、範囲:Ch.5 Locke's political constitutionalism: A re-examination of his idea of the prerogative)	Bloomsbury Academic	2021年9月	
	人間と文化	魚住 孝至	日本の伝統文化⑥ 武道	山川出版社
近藤 成一	執権 北条義時	三笠書房	2022年1月	
滝浦 真人	動的語用論の構築へ向けて(田中廣明・秦かおり・吉田悦子・山口征孝編)、(担当:共著、範囲:「薄幸のベネファクティブ『てさしあげる』のストーリー—敬意漸減と敬意のナルシズム—」(椎名美智との共著;204-240))	開拓社	2021年7月	
	日語語用学研究(趙華敏編)、(担当:共著、範囲:「東アジアの敬語論—語用論的対照研究へ向かって—」129-144))	北京:外語教学研究出版社	2021年9月	
	店員さんから「確認させていただいてもよろしいですか?」なんて言われると、目が点になります、国立国語研究所編『日本語の大疑問—眠れなくなるほど面白いことばの世界—』	幻冬舎	2021年11月	
	敬語の文法と語用論(近藤泰弘、澤田淳編著)、(担当:共著、範囲:「なぜいま敬語は『5分類』になったのか?—日本人の敬語意識に起こっていること—」(59-89))	開拓社	2021年12月	
	解説 七〇年後の敬語、金田一京助『日本の敬語』、189-197	講談社	2022年3月	
	野崎 敬	脱領域・脱構築・脱半球：二一世紀人文学のために、下河辺美知子、越智博美、後藤和彦、原田範行、巽孝之編 (担当:分担執筆、範囲:ロラン・バルト 可能性のエクリチュール(432-435))	小島遊書房	2021年10月
	文学とアダプテーションII ヨーロッパの古典を読む、小川公代、吉村和明編 (担当:分担執筆、範囲:ヴィクトル・ユゴーと映画 怪物から聖人へ(277-300))	春風社	2021年11月	
情報	辻 靖彦	The Current Status of Open Education Practices in Japan, Handbook for Online Learning Contexts: Digital, Mobile and Open, Katsusuke Shigeta, Hiroyuki Sakai, Rieko Inaba, Yasuhiko Tsuji, Naoshi Hiraoka(担当:共著、範囲:175-182)	Springer; 1st ed. 2021版	2021年5月
	中川 一史	GIGAスクール時代の学びを拓く!〜PC1人1台授業活用スタートブック〜、中川一史、赤堀侃司	ぎょうせい	2021年4月
		できるキッズ 子どもと学ぶLINE entryプログラミング入門、中川一史 (担当:監修)	インプレス	2021年6月
		小学校国語「学習者用デジタル教科書」徹底活用ガイド、中川一史 (担当:編者(編著者))	明治図書	2021年7月
		GIGAスクール構想[取り組み事例]ガイドブック 小・中学校ふだん使いのエピソードに見る1人1台端末環境のつくり方、中川一史、村井万寿夫、小林祐紀 (担当:共編者(共編著者))	翔泳社	2022年2月
Face to Faceの教育から、学びのSide by sideへ Microsoft 365 Educationを活用した小学校の学級づくり・授業づくり、鈴木秀樹、中川一史、東京学芸大学附属小金井小学校ICT部会 (担当:共編者(共編著者))	明治図書	2022年3月		
自然と環境	谷口 義明	開田高原の星空、畑英利、谷口義明、渡部潤一	開田印刷	2022年3月
公認心理師教育推進室	桑原 知子	学級づくりと授業に生かすカウンセリング、諸富祥彦、伊藤亜矢子、会沢信彦、大友秀人 (担当:分担執筆、範囲:第2節 学級づくりに使えるグループアプローチ 7ミソドラマ)	ぎょうせい	2022年1月

2021年度研究成果の発表・普及【書籍】

所 属	氏 名	書籍名、辞書・辞典名	出版社	出版年月
高知SC	深見 公雄	4次元統合黒潮圏資源学(佐野有司、徳山英一監修)、深見公雄、Pensri Muangyao (担当:分担執筆、範囲:ヘドロでエビ養殖!〜食物連鎖で“厄介者”を“資源”に(114-125))	中島出版	2022年3月
		4次元統合黒潮圏資源学(佐野有司、徳山英一監修)、久保田賢、田中壮太、寄高博行、長崎慶三、深見公雄 (担当:分担執筆、範囲:総合海洋管理および海洋人材育成に対する大学の役割(208-222))	中島出版	2022年3月

研究成果の発表・普及【論文】

本学の専任教員及び学習センター所長は、各分野・領域における新たな発見を生み出している。2021年度に発表された学術研究論文のうち、審査を受け学術雑誌等で公開された論文を紹介する。

2021年度研究成果の発表・普及【論文】

所 属	氏 名	論文名	発表媒体等	発表(出版)年月
生活と福祉	井出 訓	認知症介護の経験が家族にもたらす肯定的成長感とその関連要因、井出訓、戸ヶ里泰典	日本認知症ケア学会誌 20(2)	2021年7月
川原 靖弘	Cognitive Outcome in Patients One Month After Mild to Moderate Aneurysmal Subarachnoid Hemorrhage: Focus on the Location of the Aneurysm, Yukiko Sato, Tomoyuki Kojima, Yasuhiro Kawahara, Yorio Koguchi, Shigeki Kobayashi	Interdisciplinary Neurosurgery 27 101377-101377	2021年9月	
		Hydrogen sulfide donor protects against mechanical ventilation - induced atrophy and contractile dysfunction in the rat diaphragm, Noriko Ichinoseki - Sekine, Ashley J. Smuder, Aaron B. Morton, J. Matthew Hinkley, Andres Mor Huertas, Scott K. Powers	Clinical and Translational Science	2021年6月
関根 紀子	The MOTS-c K14Q polymorphism in the mtDNA is associated with muscle fiber composition and muscular performance, Hiroshi Kumagai, Toshiharu Natsume, Su Jeong Kim, Takuro Tobina, Eri Miyamoto-Mikami, Keisuke Shiose, Noriko Ichinoseki-Sekine, Ryo Kakigi, Takamasu Tsuzuki, Brendan Miller, Kelvin Yen, Haruka Murakami, Motohiko Miyachi, Hirofumi Zempo, Shohei Dobashi, Shuichi Machida, Hiroyuki Kobayashi, Hisashi Naito, Pinchas Cohen, Noriyuki Fuku	Biochimica et Biophysica Acta (BBA) - General Subjects 130048-130048	2021年10月	
		Genotype Score for Iron Status Is Associated with Muscle Fiber Composition in Women, Mizuki Takaragawa, Takuro Tobina, Keisuke Shiose, Ryo Kakigi, Takamasu Tsuzuki, Noriko Ichinoseki-Sekine, Hiroshi Kumagai, Hirofumi Zempo, Eri Miyamoto-Mikami, Hiroyuki Kobayashi, Hisashi Naito, Noriyuki Fuku	Genes 13(1) 5-5	2021年12月
戸ヶ里 泰典	The association between workplace social capital and authentic leadership, structural empowerment and forms of communication as antecedent factors in hospital nurses: A cross - sectional multilevel approach, Ryohei Kida, Taisuke Togari, Yoshie Yumoto, Yasuko Ogata	日本摂食嚥下リハビリテーション学会雑誌 25(3) 182-189	2021年12月	
		Coping and Growth among Isolated Male Workers Following the Fukushima Daiichi Nuclear Accident, Taisuke Togari, Kyoko Yoshioka-Maeda	Journal of Nursing Management 29(3) 508-517	2021年4月
奈良 由美子	市民のHIV陽性者へのパブリックスティグマとキャンペーン標語「U=U(ウイルス量検出限界値未満なら感染しない)」の知識、戸ヶ里泰典、阿部桜子、井上洋士	Journal of Loss and Trauma	2021年7月	
		新型コロナウイルス感染症とリスクコミュニケーション—自らのコミュニケーション実践のいったんの振り返りとして	危険と管理 (52) 81-95	2021年4月
山内 豊明	新型コロナウイルス対策専門家Twitterアカウントにおける ツイートの特徴と情報発信内容、古口凌太郎、石橋由基、田谷元、安保悠里子、伊豆藏菜、奈良由美子、堀口逸子	Co * Design. 10, 15-29.	2021年7月	
		へさ地診療所看護職の就業状況実態調査、立石愛美、山内豊明	日本臨床看護マネジメント学会誌 2 22-29	2021年7月
基礎医学講座 呼吸音聴診のコツ	術前訪問における患者とのラポール形成を導く要素-文献による手術室看護師と病棟看護師の比較検討-、内山エミ、山内豊明	健康教室 増刊号 知りたい!聞きたい! 看護教諭なんでも質問BOX 72(10) 62-63	2021年7月	
		救急救命 24(1) 12-14	2021年9月	
術前訪問における患者とのラポール形成を導く要素-文献による手術室看護師と病棟看護師の比較検討-、内山エミ、山内豊明	ヒューマンケア研究学会誌 12(1) 9-19	2021年12月		

2021年度研究成果の発表・普及【論文】

所属	氏名	論文名	発表媒体等	発表(出版)年月	
生活と福祉	山田 知子	新型コロナウイルスの感染拡大は女性の生活をどう変えたのか—さまよえる中高年女性たち	人間福祉学研究 14(1) 25-39	2021年12月	
心理と教育	小林 真理子	A Questionnaire Survey on Adolescent and Young Adult Hiroba, a Peer Support System for Adolescent and Young Adult Cancer Patients at a Designated Cancer Center in Japan, Takatoshi Hirayama, Rebekah Kojima, Ryoko Udagawa, Yuko Yanai, Yuko Ogawa, Akie Shindo, Moeko Tanaka, Mariko Kobayashi, Hiroto Ishiki, Eriko Satomi	Journal of Adolescent and Young Adult Oncology	2021年7月	
		がんの親をもつ児童生徒への 学校での支援の実態と意識—教員への質問紙調査から—, 神前裕子, 小林真理子, 高橋都	聖心女子大学論叢 138 48-68	2022年3月	
	進藤 聡彦	ルールによる課題解決はなぜ困難なのか—「誘導法」によるルール学習研究—, 工藤与志文, 佐藤誠子, 進藤聡彦	教授学習心理学研究 17(1) 1-15	2021年12月	
	橋本 朋広	救済の構造	立命館文学 (670) 502-513	2021年2月	
社会と産業	児玉 晴男	AI技術開発における総合的な知財管理	特許 74(6) 76-85	2021年6月	
		COVID-20パンデミック下における健康権の保障	比較法制研究 (44) 1-26	2022年3月	
	松井 美樹	Effect of information technology-enabled supply chain integration on firm's operational performance, Odkhishig Ganbold, Yoshiki Matsui, Kristian Rotaru	Journal of Enterprise Information Management 34(3) 948-989	2021年4月	
		A comparative study of quality management practices between Vietnamese and Japanese manufacturing plants, Minh Hue Nguyen, Phan Chi Anh, Yoshiki Matsui	International Journal of Productivity and Quality Management 33(1) 127-156	2021年5月	
		Achieving Congruence under Demand Uncertainty: A Dynamic Capability of Japanese Manufacturing and Service Industries, Ylias Razafindrazaka, Yoshiki Matsui	Proceedings of the 28th EurOMA Conference 1-10	2021年7月	
		Achieving Congruence as a Dynamic Capability: A Contingency View on Japanese Manufacturing and Service Industries, Ylias Razafindrazaka, Yoshiki Matsui	オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会論文誌 11(1) 1-26	2021年8月	
		Mediation Effects of Information Technology Links with Suppliers and Information Sharing with Suppliers in the Relationship of Supply Chain Process Integration and Supply Chain Performance, Huong Thi, Xuan Phung, Anh Chi Phan, Ha Thu Nguyen, Yoshiki Matsui	International Journal of Productivity and Quality Management 33(4) 542-542	2021年8月	
		Organizational Enablers and Barriers to Environment Protection Activities in Factories, Osam Sato, Yoshiki Matsui	Proceedings of the 52nd Annual Conference of the Decision Sciences Institute 1-17	2021年11月	
		Supply chain integration and economic performance: empirical evidence from a developing country, Minh Hue Nguyen, Anh Chi Phan, Yoshiki Matsui	Benchmarking: An International Journal ahead-of-print	2021年11月	
		Quality Information and Quality Performance: Roles of Process Control as a Mediator and Shop Floor Leadership as a Moderator, Nguyen Ngoc ANH, Anh Chi PHAN, Pham Thi Xuan THOA, Yoshiki MATSUI	Management and Production Engineering Review 12(4) 13-26	2021年12月	
		山岡 龍一	規範理論家としてのバリン—冷戦リベラルからリベラルリアリストへ	『思想』(1166)27-50	2021年6月
		人間と文化	島内 裕子	伏見連珠……森鷗外・蜷川式胤・中村真一郎を中心に	朱(伏見稲荷大社) (65)24-32
	滝浦 真人	薄幸のベネファクティブ「てさしあげる」のストーリー—敬意漸減と敬意のナルシシズム—, 椎名美智, 滝浦真人	田中廣明・秦かおり・吉田悦子・山口征孝編『動的語用論の構築へ向けて』開拓社 3 204-240	2021年6月	
		「国語に関する世論調査」に見る敬語意識—言葉と行為のはざまに見えるもの—	日本語学 40(2) 48-61	2021年6月	
		東アジアの敬語論—語用論的対照研究へ向かって—	趙華敏編『日語語用学研究』北京: 外語教学研究出版社(滝浦2017「敬語の対照研究への新視点」『日本語学』、滝浦2020「敬語」『日本語学入門』との重複あり) 129-144	2021年9月	
		[Presidential Lecture] A View of the Development of Im/Politeness Theories from an East Asian Language with Honorification	語用論研究 23 1-15	2022年3月	
		なぜいま敬語は『5分類』になったのか?—日本人の敬語意識に起こっていること—	近藤泰弘, 澤田淳編『敬語の文法と語用論』開拓社	2022年3月	
	野崎 敬	Dans la marge des mondes parallèles : Haruki Murakami et Georges Perec	Cahiers Georges Perec(14) 250-260	2021年5月	
情報	辰己 丈夫	IPSJ MOOC - Video Materials in the Informatics Education in Japan	Proceedings of OCCE 2021, IFIP TC3 is able to hold a conference 41	2021年8月	
		辻 靖彦	ティンカリングによる速度・音色とイメージとの関連付け—プログラミング言語Scratchを活用した「白鳥」の鑑賞活動—, 飯泉正人, 辻靖彦	音楽教育メディア研究 8 13-24	2022年3月

2021年度研究成果の発表・普及【論文】

所属	氏名	論文名	発表媒体等	発表(出版)年月	
情報	中谷 多哉子	ソフトウェア信頼性成長モデルとベイズ統計によるオープンソースソフトウェア動的信頼性モデルの提案, 杉山透, 中谷多哉子	ソフトウェアシンポジウム 2021 in 大分論文集 142-151	2021年6月	
		深層学習を用いたプログラム品質向上のためのソースコード画像分析手法の提案, 小川一彦, 中谷多哉子	ソフトウェアシンポジウム 2021 in 大分論文集 102-111	2021年6月	
		D-ODALープのエンタープライズ・アーキテクチャへの適用, 秋元毅彦, 中谷多哉子	電子情報通信学会技術研究報告 121	2021年7月	
		深層学習によるプログラムの不具合を画像分析した結果をコードレビューに用いるための研究, 小川一彦, 中谷多哉子	電子情報通信学会技術研究報告 121	2021年7月	
		デジタルツインへの活用を目的とした Modelica言語によるデータ同化ライブラリの開発, 市村純一, 中谷多哉子	1DCAE・MBDシンポジウム2021 論文誌 84-87	2021年12月	
		情報処理学会データサイエンスカリキュラム標準の開発, Tetsuro Kakeshita, Kazuo Ishii, Yoshiharu Ishikawa, Hitoshi Matsubara, Yutaka Matsuo, Tsuyoshi Murata, Miyuki Nakano, Takako Nakatani, Haruhiko Okumura, Naoko Takahashi, Norimitsu Takahashi, Gyo Uchida, Eriko Uematsu, Satoshi Saeki, Hiroshi Kato	IFIP Advances in Information and Communication Technology 156-167	2022年3月	
		概念モデルからユースケースを抽出するためのTraverser拡張, 中谷多哉子, 佐藤雄朗, 紫合治	信学技報 121(424) 1-6	2022年3月	
		三輪 真木子	高齢者のヘルスリテラシー向上のための教材開発に向けた医療者のインタビュー調査, 三輪真木子, 佐藤正恵, 山下ユミ, 磯部ゆき江, 阿部由美子	情報プロフェッショナルシンポジウム予稿集 2021 67-72	2021年7月
			Capturing changing user goals in information seeking process using information behavioral grammar model	Library and Information Science Research E-Journal 31(1)	2021年11月
		柳沼 良知	Identification of Nighttime Vehicle Images, Sadao Honda, Yoshitomo Yaginuma	10th International Congress on Advanced Applied Informatics (IIAI-AAI), 528-531	2021年7月
Visual Interface for Looking over Micro Contents, Masako Furukawa, Yoshitomo Yaginuma	10th International Congress on Advanced Applied Informatics (IIAI-AAI), 930-931			2021年7月	
山田 恒夫	Digital Badge as an e-Certificate of Informal Education Program: A Case Study at Open University of Japan, Yamada, T., Fushimi, K., Saitoh, S., Higuchi, T., Okada, M.	AAOU Annual Conference 2021 (2021/6/1-3, Online, Sri Lanka). Volume II: Full Papers of the 34th ANNUAL CONFERENCE OF THE ASIAN ASSOCIATION OF OPEN UNIVERSITIES (AAOU 2021). 347-358	2021年6月		
		べた語義: 学習目標と評価ルーブリックのための技術標準: デジタルエコシステムをトップダウンでイメージする	情報処理 62(10) 549-549	2021年9月	
自然と環境	石崎 克也	A Stothers-Mason theorem with a difference radical, Ishizaki, K, R. Korhonen, N. Li, K. Tohge	Math. Z. 298 671-696	2021年4月	
		Difference radical in terms of shifting zero and applications to the Stothers-Mason theorem, Ishizaki, K., Zhi-Tao Wen	Proc. Amer. Math. Soc. 150(02) 731-745	2022年2月	
	加藤 和弘	屋久島・口永良部島ユネスコエコパークに対する地域住民の認識に関する研究, 戸田恵美, 加藤和弘, 古市剛史	野生生物と社会 9 1-13	2021年9月	
岸根 順一郎	Chirality-Induced Spin Polarization over Macroscopic Distances in Chiral Disilicide Crystals, Kohei Shiota, Akito Inui, Yuta Hosaka, Ryoga Amano, Yoshichika Onuki, Masato Hedo, Takao Nakama, Daichi Hirobe, Jun-ichiro Ohe, Jun-ichiro Kishine, Hiroshi M. Yamamoto, Hiroaki Shishido, Yoshihiko Togawa	Physical Review Letters 127(12)	2021年9月		
		Dark discrete breather modes in a monoaxial chiral helimagnet with easy-plane anisotropy, I. G. Bostrem, E. G. Ekomasov, J. Kishine, A. S. Ovchinnikov, V. E. Sinitsyn	Physical Review B 104(21)	2021年12月	
谷口 義明	SILVERRUSH X: Machine Learning-aided Selection of 9318 LAEs at z = 2.2, 3.3, 4.9, 5.7, 6.6, and 7.0 from the HSC SSP and CHORUS Survey Data, Ono, Y., et al. 2021, ApJ, 911, id. 78, 20	IEEE Transactions on Magnetics 58(2)	2022年2月		
		SILVERRUSH. IX. Ly α Intensity Mapping with Star-forming Galaxies at z = 5.7 and 6.6: A Possible Detection of Extended Ly α Emission at \approx 100 Comoving Kiloparsecs around and beyond the Virial-radius Scale of Galaxy Dark Matter Halos, Kakuma, R., et al. 2021, ApJ, 916, id. 22, 9	The Astrophysical Journal	2021年7月	
		Optical Spectroscopy of Dual Quasar Candidates from the Subaru HSC-SSP program, Tang, S., et al. 2021, ApJ, 922, id. 83, 30	The Astrophysical Journal	2021年11月	
		COSMOS2020: A Panchromatic View of the Universe to z 10 from Two Complementary Catalogs, Weaver, J. R., et al. 2022, ApJS, 258, id. 11, 30	The Astrophysical Journal Supplement Series	2022年1月	

2021年度研究成果の発表・普及【論文】

所属	氏名	論文名	発表媒体等	発表(出版)年月
自然と環境	二河 成男	Host's guardian protein counters degenerative symbiont evolution, Ryuichi Koga, Masahiko Tanahashi, Naruo Nikoh, Takahiro Hosokawa, Xian-Ying Meng, Minoru Moriyama, Takema Fukatsu	Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America 118(25)	2021年6月
	橋本 健朗	レーザー脱離イオン化質量分析法へのゼオライトの利用、堀越俊樹、許家璋、北岡千裕、浅野貴志、橋本健朗、藤野竜也	ゼオライト 39(1) 10-20	2022年1月
	安池 智一	Synthetic Study on Carthamin, Part 4. Improved Synthesis of a C-Glycosyl Quinochalcone by Installation of a Side Chain through Regioselective De-O-methylation and Acyl Rearrangement, Seiya Matsuoka, Kohei Azami, Yusuke Fujiki, Reina Dohi, Tomokazu Yasuike, Ken Ohmori, Keisuke Suzuki	Synlett 32 A-G	2021年9月
		Ultrafast Plasmonic Response Ensured by Atomic Scale Confinement, Shunsuke Tanaka, Tatsuya Yoshida, Kazuya Watanabe, Yoshiyasu Matsumoto, Tomokazu Yasuike, Dino Novko, Marin Petrović, Marko Kralj	ACS Photonics 9(3) 837-845	2022年3月
公認心理師教育推進室	桑原 知子	巻頭言 ご挨拶—今あらためて箱庭療法を考える	箱庭療法研究 34巻(第1号) 1-2	2021年7月
		日本の南極越冬における心理社会的ストレスの諸相—越冬経験者の手記を手がかりに—、鳴岩伸生、川部哲也、加藤奈奈子、佐々木麻子、桑原知子	京都光華女子大学京都光華女子大学短期大学部研究紀要 (59) 253-271	2022年3月
福島SC	千葉 悦子	原発事故から10年を迎える福島—農村女性のエンパワメント	Women's View (19) 12-23	2021年8月
		ジェンダー学習問題の展開と女性/男女共同参画センター	月刊社会教育 (790) 4-11	2022年3月
		東日本大震災・原発事故から10年を経て—農村の女性から見てくるもの	女性労働研究 (66) 186-187	2022年3月
東京文京SC	林 徹	移民・難民が生み出す非標準的ドイツ語変種に関する覚え書き：統合コース受講者の資料から	アルタイ諸言語を対象とした環境の変化と言語の変容に関する総合的研究 17-32	2022年3月
神奈川SC	福富 洋志	優先的結晶成長機構によるFe—Mn—Si—Cr合金の集合組織制御と形状記憶特性の向上、福富洋志、鈴木茂、中島格、岡安和人、長谷川誠、小貫祐介	鉄と鋼 107(4) 312-320	2021年4月
石川SC	千木 昌人	SYNTHESIS AND BLUE DYEING ABILITY FOR POLYPROPYLENE FABRICS OF VARIOUS 3,7-BIS(DIALKYLAMINO)PHENOXAZINE-5-IUM SALTS AND THE SULFUR AND SELENIUM ANALOGS, Takumi Yoshida, Masahito Segi	Heterocycles 103(2) 754-768	2021年4月
		Synthesis of homo- and heterofunctionalized bay-annulated indigo derivatives and their properties, Taniyuki Furuyama, Daichi Tamura, Hajime Maeda, Masahito Segi, Masanobu Uchiyama	Dyes and Pigments 193 109535	2021年9月
		Red-light-activatable ruthenium phthalocyanine catalysts, Yuta Ishikawa, Tatsuya Kameyama, Tsukasa Torimoto, Hajime Maeda, Masahito Segi, Taniyuki Furuyama	Chemical Communications 57 13594	2021年12月
		Direct Near Infrared Light-Activatable Phthalocyanine Catalysts, Yoshino Katsurayama, Yasuhiro Ikabata, Hajime Maeda, Masahito Segi, Hiromi Nakai, Taniyuki Furuyama	Chemistry—A European Journal 28 e202103223	2022年1月
岐阜SC	野々村 修一	Recovery of potential-induced degraded p-type multicrystalline Si PV modules by application of a reverse DC bias, Go Sian Huai, Kiyoshiro Takada, Kota Ono, Shingo Hashimoto, Naing Lin Htun, Fumitaka Ohashi, Norimitsu Yoshida, Yasushi Sobajima, Shuichi Nonomura	Japanese Journal of Applied Physics 61(4) 041002	2022年3月
和歌山SC	宗森 純	アイデアマップ作成機能iroha Mapの開発と知的文章作成への適用、三浦幸太郎、由井園隆也、宗森純	日本創造学会論文誌 24 97-118	2021年4月
		脈拍データをうい風で刺激する脈拍上昇抑制システムの開発、宗森純、堤野理貴、伊藤淳子	情報処理学会論文誌 63(2) 676-683	2022年2月
		複数人の観光における休憩の指標を導入した観光支援システムの開発、宗森純、小形絃右、伊藤淳子	情報処理学会論文誌 63(2) 624-633	2022年2月
広島SC	山田 隆	High Resolution Structure of the Mature Capsid of Ralstonia solanacearum Bacteriophage phiRSA1 by Cryo-Electron Microscopy, Gregory Effantin, Akiko Fujiwara, Takeru Kawasaki, Takashi Yamada, Guy Schoehn	Intl J Mol Sci 22 11053-1-11053-11	2021年10月
高知SC	深見 公雄	To what size can abalone, <i>Haliotis discus hannai</i> , grow on attached microalgae as a sole dietary source in deep seawater?, Fukami, K., Saitou A., Toyokawa H., Tao K., Hotta T., Kawakita H., Sakai A., Mizobuchi M.	Deep Ocean Water Research 21 51-59	2021年5月
		Isolation of bacteria able to degrade poly-hydroxybutyrate-co-hydroxyhexanoate, and the inhibitory effects of the degradation products on shrimp pathogen <i>Vibrio penaeicida</i> , Kimio Fukami, Fumika Takagi, Sayaka Shimizu, Kaito Ishigo, Michiko Takahashi, Takao Horikawa	Microbial Pathogenesis 160	2021年11月
		Effective purification of eutrophic wastewater from the beverage industry by microbubbles, Kimio Fukami, Tatsuro Oogi, Kohtarō Motomura, Tomoka Morita, Masaaki Sakamoto, Takashi Hata	Water (Switzerland) 13(24)	2021年12月
長崎SC	山下 敬彦	Underwater shock wave induced by pulsed discharge on water, Tomohiro Furusato, Mitsuru Sasaki, Yoshinobu Matsuda, Takahiko Yamashita	Journal of Physics D: Applied Physics 55(11) 115203-115203	2022年3月

研究成果の発表・普及【その他】

2021年度研究成果の発表・普及【その他】

所属	氏名	学術雑誌名等	発行元	出版年月
生活と福祉	田城 孝雄	医療機関が盛り上げる地域づくり・まちづくり(第1回) 支援事業を活用したまちづくり歴史的エポックメイキングな事例・地方都市の先進的な事例	病院羅針盤 12(186) 43-49	2021年4月
	戸ヶ里 泰典	SOCの考え方—理論的背景と進展、日本語版SOCスケール	産業医学ジャーナル 44(5) 4-8	2021年9月
	奈良 由美子	リスクコミュニケーションで皆が望む社会をめざす 武藤香織、田中幹人、奈良由美子	医学書院週刊医学界新聞(通常号) 第3417号(2021.04.19)	2021年4月
		COVID-19の公衆衛生対応におけるリスクコミュニケーション	INFECTION CONTROL (インフェクションコントロール) 30(9) 86-89	2021年9月
心理と教育	岩崎 久美子	UCパークレー校に見るマイノリティ学生への学習の公正性に着目した教育	文部科学教育通信 (522) 20-21	2021年12月
		ミンガン大学公衆衛生学部における「フォトボイス手法」の開発	文部科学教育通信 (523) 26-27	2022年1月
		教育における「エビデンス」の多義性	指導と評価 (807) 8-10	2022年2月
	田中 統治	わたしはなぜ教育の道を志したか	教育展望 67(7) 46-47	2021年8月
		「令和の日本型学校教育」を読み解く視点	教職課程 (3月) 006-009	2022年3月
社会と産業	北川 由紀彦	貧困調査の方法を学ぶ人のために—ホームレス研究を例として(垣田裕介・後藤広史・丸山里美・山北輝裕と共著)	貧困研究 (27) 63-80	2021年12月
	白鳥 潤一郎	「表の顔」を演じ切る覚悟—追悼・海部俊樹	外交 (71) 138-139	2022年1月
	山岡 龍一	Comments and questions on Professor John Dunn's paper, "Truth, Trust and Impression-management in Democratic Legitimacy"	政治思想研究 政治思想における真実と虚偽 21 368-364	2021年5月
人間と文化	杉森 哲也	書評 地方史研究協議会編『京都という地域文化：地方史研究協議会第70回(京都)大会成果論集』(雄山閣、2020年11月刊)	地方史研究 (413) 91-95	2021年10月
		〈近世巨大都市社会構造研究の最前線—『シリーズ三部』をめぐって—) 編者からのリプライ、杉森哲也、塚田孝、吉田伸之	歴史科学 (248) 55-60	2022年1月
情報	近藤 智嗣	わかりやすい映像にするための5つのノウハウ	教室の窓 東京書籍 Vol.63 27	2021年4月
		展示のDXとミクストリアリティ	博物館研究 2021年9月号	2021年9月
		動画編集を共同作業で成功させるコツ	教室の窓 東京書籍 Vol.64 27	2021年9月
		オンライン授業のよくあるトラブル	教室の窓 東京書籍 vol.65	2022年1月
	中川 一史	GIGAスクール時代の国語授業づくり	教育科学国語教育No.856、明治図書 90-93	2021年4月
		提言「個別最適な学び」を考える	実践国語研究No.366、明治図書 6-7	2021年5月
		GIGAスクール構想に乗り遅れないためのスタートガイド	楽しい体育の授業2021 8、明治図書、20-21	2021年8月
自然と環境	加藤 和弘	SimRiver(シムリバー)とMushiRiver(ムシリバー)-オンライン・ツールを使った国際河川環境教育-、真山茂樹、加藤和弘、里見研悟	昆虫と自然 56(7) 32-33	2021年6月
	谷口 義明	プレシオスの鎖の解き方	賢治学+第1集 岩手大学人文社会科学部【宮沢賢治いわて学センター】編	2021年6月
		ジョバンニが銀河鉄道の中から見た、がらんとした桔梗色の空の謎、谷口義明、渡部潤一、畑英利	天文月報、2021年6月号、405-415、日本天文学会	2021年6月
		色で読む『銀河鉄道の夜』	天界 2021年6月号、195-199、東亜天文学会	2021年6月

国際交流への取り組み

2021年度は、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行の影響を受け、従来のような海外渡航を伴う国際会議への参加や協力交流協定校への調査訪問等を実施することは困難であったものの、オンラインを活用した国際会議への参加や国際シ

ンポジウムの企画・開催、さらには在外邦人等の受け入れに向けた検討を開始する等、本学の国際交流事業の新たな展開に向け取り組んだ一年となった。

AAOU理事会及び年次大会へのオンライン参加

2021年6月1日～3日、スリランカ・コロンボ市のCinnamon Grand Colomboにてスリランカ公開大学(The Open University of Sri Lanka)主催により、第35回アジア公開大学連合(AAOU= The Asian Association of Open Universities)理事会及び第34回AAOU年次大会が開催された。

本学からは、AAOU理事会メンバーとして岩永雅也学長及び隈部正博副学長がオンラインにより参加し、17の議題について活発な意見交換等を行った。

年次大会においては、大会のテーマ“Opening Minds for a Sustainable Future: Re-orienting ODL to Surmount Challenge”(持続可能な未来へ向けて心を開く:課題を克服するための遠隔教育の再構築)のもと、山田恒夫教授は“Digital Badge as an e-Certificate of Informal Education Program: A Case Study at Open University of Japan”との題目で、本学AOBAシステムへのデジタルバッジ実装に際し実施された実証実

験の結果についての報告等を行った。戸ヶ里泰典教授は“A Cooperative Nursing Professional Education at Open University of Japan”との題目で、本学における看護師国家試験受験資格取得に向けた、二年課程通信制看護師養成所(専門学校)との連携教育に関する報告等を行った。大森聡一准教授は“Network-Based Remote Laboratory in Distance Education: Scanning Electron Microscopy Experiment”との題目で、ネットワーク経由で行う走査型電子顕微鏡実験の取り組みについて発表し、革新的な方法による遠隔教育への実験実習の導入方法を紹介した。



ICDE会議への参加

2021年10月25日～29日、オンラインにて国際遠隔教育会議(ICDE= International Council for Open and Distance Education)バーチャルグローバルカンファレンスウィーク2021が開催された。全体のテーマは、Upskilling and Upscaling for Quality Open, Flexible and Distance Learning(質の高いオープンで柔軟な遠隔教育(OFDL)のためのスキルアップとアップスケーリング)であり、53カ国の代表者が、様々なタイムゾーン(時差)に適合した柔軟な会議スケジュールを通じて参加し、本学からは、隈部正博副学長及び山田恒夫国際交流委員長・教授

が参加した。また、“Flexibility, Accessibility, Scalability and Innovation in Quality Assurance”(品質保証における柔軟性、アクセシビリティ、スケーラビリティ、イノベーション)のほか、2つのサブテーマのもと、パネルセッションやワークショップ等が開催され、今後の遠隔教育の方向性等について活発な議論が行われた。



ICDEリーダーシップサミットへの参加

2022年1月20日～21日、ICDEリーダーシップサミットが韓国・ソウルにて韓国放送通信大学校(KNOU)主催により開催された。“Leadership for EdTech Oriented Innovation in Education”をテーマに、世界各国の研究者による基調講演、パネルディスカッション及び研究発表が行われた。本学からは、岩永雅也学長、隈部正博副学長及び山田恒夫国際交流委員長・

教授が参加し、EdTechに関する各国のコロナ禍における活用事例とコロナ後の方向性について活発な議論が行われた。



中国・国家開放大学との交流推進

2021年10月14日～15日、中国・国家開放大学(OUC)において、第20回中国国際遠隔教育会議(The 20th China International Conference on Distance Education)が開催され、岩永雅也学長が「新型コロナウイルス終息後の新しい日常における公開大学の指針と社会的役割」をテーマに基調講演を行った。

当該講演においては、新型コロナウイルス感染拡大による日本

の教育への影響や大学の対応、教員と学生の意識の変化等について分析するとともに、アフターコロナにおける本学が目指すビジョンや取り組みについて紹介した。



台湾・国立空中大学との国際交流協定を更新

11月26日、台湾・国立空中大学(NUO)との間でオンラインによる調印式を開催し、国際交流協定の更新を行った。

本学からは、岩永雅也学長、隈部正博副学長及び山田恒夫国際交流委員長・教授が列席し、式の進行は、本学の辰己丈夫教授と国立空中大学の蔣宜卿助理教授との共同司会のもと行われた。

国立空中大学とは、2016年に共同研究や教職員の交流、教材の共同開発・交換等を視野に入れた国際交流協定を締結し、以来、関係性を強化してきた。同大学とは、今後の展望や抱

えている問題など多くの類似点があり、今回の国際交流協定の更新により、これからも手を携えさらなる活発な交流を重ね、互いに進化していくことが期待される。



在外邦人等への教育サービスの提供を検討

近年のインターネットの普及や技術の発展に伴いインターネットを活用した受講形態が広まり、さらにはインターネットを活用した単位認定試験の導入が予定されており、日本国外からも本学のコンテンツを受講できる環境が整いつつある。そのため、本学として創設以来約40年間に渡り築き上げてきた質の高い遠隔教育・生涯学習の強みを活かして、在外邦人への教

育サービス提供の検討を開始した。

本学の海外展開に際し、在外邦人等がどのような学びに関心を持ち、放送大学の授業がどのような形式であれば受講したいと考えられるのか等の調査を実施した。本調査結果を踏まえ、検討を加速させるとともに、今後も必要に応じて追加調査を実施する予定である。

本学との協力交流協定を締結している海外の大学(2022年3月時点)

国・地域	機関名(英語表記)	締結年月日	
ブータン	Royal University of Bhutan	ブータン王立大学	2017/8/18
ブラジル	Universidade Federal de Mato Grosso(UFMT)	マトグロッソ連邦大学	2018/9/28
カナダ	Athabasca University	アサバスカ大学	1992/10/13
中国	The Open University of China	国家開放大学	2009/5/7
韓国	Korea National Open University	韓国放送通信大学校	2008/9/22
モンゴル	National University of Mongolia(NUM)	モンゴル国立大学	2019/10/15
スペイン	Universitat Oberta de Catalunya	カタルーニャ公開大学	2014/8/1
台湾	National Open University	国立空中大学	2016/10/31
タイ	Sukhothai Thammathirat Open University (STOU)	スコタイ・タマティラート公開大学	2012/5/15
英国	The Open University	オープン・ユニバーシティ	2008/8/26
米国	University of Maryland Global Campus	メリーランド大学グローバルキャンパス校	2009/11/15

教員による社会貢献

本学は「開かれた大学」として、建学以来、熱心に社会貢献に取り組んできた。

本学の教員は、多岐にわたる社会貢献活動を行っており、その中から活動の一部を紹介する。

日本学術会議

日本学術会議は、科学が文化国家の基礎であるという考えのもと、行政、産業及び国民生活に科学を反映、浸透させることを目的として、政府から独立した「特別の機関」として1949年に設立された。

職務は、①科学に関する重要事項を審議しその実現を図ること、及び②科学に関する研究の連絡を図りその能率を向上させることである。

日本学術会議は、我が国の人文・社会科学、生命科学、理学・工学の全分野における科学者約87万人を内外に代表する機関で、210人の会員と約2,000人の連携会員によって職務が

担われている。

日本学術会議の役割は、主に①政府に対する政策提言、②国際的な活動、③科学者間ネットワークの構築、④科学の役割についての世論啓発である。(日本学術会議ホームページより抜粋)

本学の教員は、下表の会員加入状況が示すように連携会員に選ばれ活動に貢献している。

日本学術会議での会員(連携会員)加入状況				
所属	氏名	職名	専門分野	会員区分
東京文京SC	林 徹	所長	言語・文学	連携会員

学会、国、地方自治体等での活動

本学教員は、それぞれの専門性を生かし、学識者として社会において幅広く活躍している。

活躍の場は学会のみならず、国・地方自治体等の様々な組織で活動し、社会の発展に寄与している。以下にその一部を紹介する。

学会、国、地方公共団体等での活動					
所属	氏名	職名/役職	所属	氏名	職名/役職
生活と福祉			生活と福祉		
井出 訓	社会福祉法人 桜秀会/理事 北海道認知症グループホーム協会/外部理事 日本老年看護学会/評議員 日本老年社会学会/評議員 日本老年看護学会/査読委員 日本老年社会学会/評議員 日本老年社会学会/査読委員 日本認知症ケア学会/評議員	田城 孝雄	厚生労働省医政局 地域医療再生計画に係る有識者会議/委員 内閣官房 地域活性化統合本部健康・医療のまちなかづくりに関する有識者・実務者会合/座長 内閣官房 構造改革特別区域推進本部 評価・調査委員会 医療・福祉・労働部会/専門委員 国立長寿医療センター 在宅医療推進会議作業部会(医療連携)/部会長 板橋区乳がんの地域連携パス検討委員会/委員 足立区糖尿病対策協議会/委員(アドバイザー) 世田谷区地域保健福祉審議会 高齢者福祉・介護保険部会/委員	戸ヶ里 泰典	日本エイズ学会/代議員 日本健康教育学会/編集委員長 日本社会医学会/評議員 日本保健医療社会学会/理事 日本健康教育学会/理事 日本健康教育学会/代議員 日本創傷・オストミー失禁管理学会/査読委員
大曾根 寛	日本社会保障法学会/理事・監事 愛知県社会福祉協議会 日常生活自立支援事業契約締結審査会/委員長 名古屋社会福祉協議会 障害者・高齢者権利擁護センター事業運営委員会/委員長	奈良 由美子	文部科学省 実社会課題に対応するコミュニケーションの推進事業評価会議/委員 内閣官房サイバーセキュリティ戦略本部重要インフラ専門調査会/委員 内閣府「防災スペシャリスト養成」企画検討会/委員 内閣官房 新型インフルエンザ等対策推進会議/委員 環境省中央環境審議会/臨時委員 東京iCDC(東京感染症対策センター)専門家ボード リスクコミュニケーションチーム/チーム長 東京iCDC(東京感染症対策センター)運営委員会/委員		
川原 靖弘	日本学術会議 総合工学委員会科学的知見の創出に資する可視化分科会細胞-身体可塑基盤からの自分を知り育てる科学知見創出に資する可視化小委員会 委員 電子情報通信学会 行動と認知時限研究専門委員会/副委員長 人間情報学会/理事・編集委員 一般財団法人未踏医学研究財団/理事				
下夷 美幸	日本家族社会学会/理事				
田城 孝雄	豊島区在宅医療推進会議/会長 厚生労働省医政局 在宅医療普及啓発推進支援事業企画書等評価委員会/委員 厚生労働省医政局 在宅医療普及啓発企画委員会/委員 文京区在宅医療推進協議会/会長 文京区地域医療連携推進協議会/副会長				

学会、国、地方公共団体等での活動					
所属	氏名	職名/役職	所属	氏名	職名/役職
生活と福祉	奈良 由美子	東京都新型コロナウイルス感染症/医療アドバイザー 厚生労働省新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する厚生労働省対策推進本部/事務局参与 環境省 エコチル調査に係る「地域の子育て世代との対話」業務検討会/委員 科学技術振興機構 社会技術研究開発センター、「科学と社会」推進部「SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム」/プログラム総括補佐 土木学会原子力土木委員会 リスクコミュニケーション委員会/委員長 名古屋大学/客員教授 内閣官房 内閣サイバーセキュリティセンター サイバーセキュリティ戦略本部 研究開発戦略専門調査会/委員 土木学会原子力土木委員会/委員 日本リスクマネジメント学会/理事 社会・経済システム学会/理事	心理と教育	岩崎 久美子	教育委員会の事務に関する点検・評価委員(東京都武蔵野市、東京都福生市、千葉県千葉市) 文部科学省委託事業 国際バカロレアに関する国内推進体制の整備:文部科学省IB教育推進コンソーシアム関係者協議会/会長 公益財団法人図書館振興財団 調べる学習コンクール三次審査委員会/委員 千葉県 総合計画策定懇談会/委員 千葉県千葉市教育委員会 第13期千葉市生涯学習審議会/委員 日本教育社会学会/編集委員 公益財団法人音楽文化創造/理事 東京都西東京市教育委員会 社会教育委員の会議/委員
山内 豊明	日本看護学教育学会/理事 日本医療機能評価機構 教育研修事業運営委員会/委員 厚生労働省 医道審議会/委員 日本臨床看護マネジメント学会/理事 日本看護管理学会/評議員 日本看護科学学会/評議員 日本学術振興会/専門委員 日本医療機能評価機構 医療事故等収集事業 専門分析班/委員 日本医療機能評価機構 医療事故等収集事業 総合評価部会/委員 日本看護医療学会/理事 文部科学省 科学技術・政策研究所 科学技術予測・政策基盤調査研究センター/専門調査員 日本医療マネジメント学会/理事	山田 知子	社会福祉法人サンフレンズ 社会福祉法人/理事、評議員 日本社会福祉学会 日本社会福祉学会/関東ブロック運営委員 社会福祉法人恩賜財団済生会 済生会中央治験審査/委員 杉並区社会福祉協議会 杉並区共同募金配分委員会/委員長 日本社会福祉学会関東ブロック 社会福祉学評論/編集委員 日本社会福祉学会 学会誌/査読委員	高橋 秀明	公益社団法人日本心理学会認定心理士資格認定委員会/委員
吉村 悦郎	一般財団法人発電設備技術検査協会 環境システム評価委員会/委員 日本分析化学会 分析化学実技シリーズ編集委員会/委員 文部科学省教育関係共同利用拠点制度審査委員会/委員	吉村 悦郎	一般財団法人発電設備技術検査協会 環境システム評価委員会/委員 日本分析化学会 分析化学実技シリーズ編集委員会/委員 文部科学省教育関係共同利用拠点制度審査委員会/委員	橋本 朋広	日本ロールシャッハ学会/理事
心理と教育	岩崎 久美子	内閣府 構造改革特別区域推進本部評価・調査委員会/委員 千葉県教育委員会 スーパーサイエンスハイスクール(千葉県立長生高等学校)運営指導協議会/委員 日本生涯教育学会/理事 神奈川県川崎市 政策評価審査委員会/委員 フランス教育学会/紀要編集委員長 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構 国立大学教育研究評価委員会/専門委員 千葉大学先進科学センター 運営協議会/委員 フランス教育学会/理事 公益財団法人武蔵野生涯学習振興事業団/理事 独立行政法人青少年教育振興機構/評価委員 千葉県千葉市教育委員会 第14期生涯学習審議会/委員 千葉県千葉市 新基本計画審議会/委員 文部科学省・国立教育政策研究所 社会教育実践研究センター 社会教育主事講習の充実に資する学習コンテンツ等の開発に関する調査研究会/委員	苑復 傑	一橋大学 森有礼高等教育国際流動化センター/客員研究員 東アジア共同体評議会 東アジア共同体評議会/有識者議員	
小林 真理子	日本臨床心理士会/代議員 日本遊戯療法学会/理事 日本臨床心理士養成大学院協議会/代議員 NPO法人 Hope Tree/理事	森 津太子	日本パーソナリティ心理学会/常任理事 日本心理学会 Japanese Psychological Research/編集委員	小林 真理子	日本臨床心理士会/代議員 日本遊戯療法学会/理事 日本臨床心理士養成大学院協議会/代議員 NPO法人 Hope Tree/理事
進藤 聡彦	北杜市/社会教育委員 甲府市社会福祉審議会/委員 甲斐市いじめ防止連携協議会/議長 山梨県/社会教育委員 山梨県教員のキャリアアップ研修審議委員会/委員長 日本教育心理学会 城戸奨励賞審査委員会/委員 日本教育心理学会ハラスメント防止委員会/委員長 日本教育心理学会/代議員	進藤 聡彦	北杜市/社会教育委員 甲府市社会福祉審議会/委員 甲斐市いじめ防止連携協議会/議長 山梨県/社会教育委員 山梨県教員のキャリアアップ研修審議委員会/委員長 日本教育心理学会 城戸奨励賞審査委員会/委員 日本教育心理学会ハラスメント防止委員会/委員長 日本教育心理学会/代議員	橋本 朋広	日本ロールシャッハ学会/理事
波田野 茂幸	立川市教育委員会 立川市就学支援等検討委員会/委員	向田 久美子	公益社団法人日本心理学会/専門別代議員(第2部門) 日本パーソナリティ心理学会/常任理事 日本心理学会 Japanese Psychological Research/編集委員	波田野 茂幸	立川市教育委員会 立川市就学支援等検討委員会/委員
森 津太子	日本パーソナリティ心理学会/常任理事 日本心理学会/地域別代議員	向田 久美子	公益社団法人日本心理学会/専門別代議員(第2部門) 日本パーソナリティ心理学会/常任理事 日本心理学会 Japanese Psychological Research/編集委員	向田 久美子	公益社団法人日本心理学会/専門別代議員(第2部門) 日本パーソナリティ心理学会/常任理事 日本心理学会 Japanese Psychological Research/編集委員
社会と産業	児玉 晴男	一般社団法人 企業法学会/理事長 知的財産高等裁判所/専門委員(知的財産関係)	社会と産業	児玉 晴男	一般社団法人 企業法学会/理事長 知的財産高等裁判所/専門委員(知的財産関係)
齋藤 正章	中小企業診断協会 中小企業診断士出題委員会/委員	齋藤 正章	中小企業診断協会 中小企業診断士出題委員会/委員	齋藤 正章	中小企業診断協会 中小企業診断士出題委員会/委員
白鳥 潤一郎	日本国際政治学会 書評小委員会/委員 日本国際問題研究所 国際政治史検討会/委員	白鳥 潤一郎	日本国際政治学会 書評小委員会/委員 日本国際問題研究所 国際政治史検討会/委員	白鳥 潤一郎	日本国際政治学会 書評小委員会/委員 日本国際問題研究所 国際政治史検討会/委員
原 武史	講談社 本田靖春/ノンフィクション賞選考委員会/委員 一般財団法人日中文化交流協会/理事 一般財団法人日中文化交流協会/常任委員	原 武史	講談社 本田靖春/ノンフィクション賞選考委員会/委員 一般財団法人日中文化交流協会/理事 一般財団法人日中文化交流協会/常任委員	原 武史	講談社 本田靖春/ノンフィクション賞選考委員会/委員 一般財団法人日中文化交流協会/理事 一般財団法人日中文化交流協会/常任委員
原田 順子	横浜市 横浜市物流等関連施設等指定管理者選定評価委員会/委員 人材育成学会 選挙管理委員会/委員	原田 順子	横浜市 横浜市物流等関連施設等指定管理者選定評価委員会/委員 人材育成学会 選挙管理委員会/委員	原田 順子	横浜市 横浜市物流等関連施設等指定管理者選定評価委員会/委員 人材育成学会 選挙管理委員会/委員
松井 美樹	オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会 第6回P&OM 世界大会運営委員会/委員 オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会/会長	松井 美樹	オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会 第6回P&OM 世界大会運営委員会/委員 オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会/会長	松井 美樹	オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会 第6回P&OM 世界大会運営委員会/委員 オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会/会長
松原 隆一郎	東京都広告物審議会/委員 内閣府レジリエンス懇談会/委員 杉並芸術会館 運営評価委員会/座長 毎日新聞/書評委員	松原 隆一郎	東京都広告物審議会/委員 内閣府レジリエンス懇談会/委員 杉並芸術会館 運営評価委員会/座長 毎日新聞/書評委員	松原 隆一郎	東京都広告物審議会/委員 内閣府レジリエンス懇談会/委員 杉並芸術会館 運営評価委員会/座長 毎日新聞/書評委員
柳原 正治	九州国際法学会/理事長 日本国際法協会 研究企画委員会/主任	柳原 正治	九州国際法学会/理事長 日本国際法協会 研究企画委員会/主任	柳原 正治	九州国際法学会/理事長 日本国際法協会 研究企画委員会/主任
山岡 龍一	日本イギリス哲学学会/会長、理事 政治思想学会/理事	山岡 龍一	日本イギリス哲学学会/会長、理事 政治思想学会/理事	山岡 龍一	日本イギリス哲学学会/会長、理事 政治思想学会/理事
人間と文化	魚住 孝至	実存思想協会/理事・編集委員	人間と文化	魚住 孝至	実存思想協会/理事・編集委員

学会、国、地方公共団体等での活動

所属氏名	職名/役職
人間と文化	
大橋 理枝	日本コミュニケーション学会 学術局運営委員会(学会誌担当) 国際行動学会/理事 国際行動学会/学会誌編集担当 日本コミュニケーション学会/副学術局長 (ジャーナル担当理事) 文部科学省高等教育局 大学設置・ 学校法人審議会(大学設置分科会)/専門委員
河原 温	公益財団法人 史学会/理事 都市史学会/常任委員 比較都市史研究会/編集幹事 メトロポリタン史学会/委員
近藤 成一	歴史科学協議会/代表理事
須川 英徳	日韓歴史共同研究委員会 第二分科会(中世・近世)/委員・幹事
杉森 哲也	都市史学会/会長
滝浦 真人	日本語用論学会/会長 文化審議会(国語分科会)/臨時委員 日本語用論学会/評議員 日本語学学会/評議員
野崎 欽	文化庁 芸術選奨選考審査会/審査員
宮本 徹	日本中国語学会/編集委員 中国出土資料学会/会長
宮本 陽一郎	筑波アメリカ文学会/会長
情報	
青木 久美子	公益社団法人日本理容美容教育センター e-Learningのあり方検討会/委員 GUIDE Association GUIDE Association Coordinator for the Asian region Turkish Online Journal of Educational Technology/Advisory Board Member
浅井 紀久夫	International Journal of Virtual and Personal Learning Environments/Associate Editors
大西 仁	電子情報通信学会通信行動工学時限専門委員会/委員 電子情報通信学会ヒューマン情報処理研究専門委員会/顧問
加藤 浩	情報処理学会 データサイエンス教育委員会/委員長 情報処理学会 情報処理教育委員会/委員 日本教育工学会/評議員 日本科学教育学会/代議員
近藤 智嗣	日本オープンオンライン教育推進協議会/理事 日本展示学会/理事 ISO/IEC JTC 1/SC24WG09小委員会 (情報処理学会情報規格調査会)/委員 AXIES 大学ICT推進協議会/理事
辰己 丈夫	情報処理学会/理事 電子情報通信学会「技術と社会・倫理」研究会/副委員長 情報処理学会 教科書委員会/委員 情報処理学会 情報処理教育委員会/委員 情報処理学会 初等中等教育委員会/委員
辻 靖彦	情報処理学会 全国大会プログラム編成WG/委員 Information and Technology in Education and Learning (ITEL)/編集委員 情報処理学会CLE研究会/運営委員 教育システム情報学会関東支部/幹事 教育システム情報学会関東支部/役員 大学ICT推進協議会 ICT活用調査部会/委員
中川 一史	文部科学省 GIGAスクール構想に基づく1人1台 端末の円滑な活用に関する調査協力者会議/委員 文部科学省 デジタル教科書の今後の在り方等に関する検討会議/委員 内閣府 青少年インターネット環境の整備等 に関する検討会/座長代理 教科書研究センター デジタル教科書に関する 調査研究委員会/委員長

所属氏名	職名/役職
情報	
中川 一史	文部科学省 令和2年度文部科学省委託 「デジタル教科書の効果・影響等に関する実証研究事業」 有識者会議/主査 日本教育メディア学会 日本教育メディア学会 論文賞選考委員会/委員長 情報処理学会技術士委員会/主査 情報処理学会/企業認定審査委員 りそな中小企業振興財団 中小企業優秀新技術・ 新製品賞/専門審査委員 日本技術者教育認定機構 JABEEソウル協定 プログラム対応部会/委員 ソフトウェア技術者協会/幹事 知能ソフトウェア工学研究会 研究専門委員会/委員
中谷 多哉子	Program Committee of ICCE2018/Program Committee 文部科学省先導的大学の改革推進委託事業「重度障害学生に 対する支援のあり方に関する調査研究」/WGメンバー 一般社団法人全国高等教育障害学生支援協議会/監事
葉田 善章	日本デザイン学会/理事
広瀬 洋子	一般社団法人大学ICT推進協議会 大学ICT推進協議会 学術・教育コンテンツ流通部会/主査 日本オープンコースウェアコンソーシアム(JOCW)/監事 一般社団法人 日本IMS協会 理事・運営委員会・ IMS Japan賞選定委員会/委員長 大学ICT推進協議会(AXIES)研究員・国際連携室/室長 日本オープンオンライン教育推進協議会(JMOOC) 事務局/次長
伏見 清香	
山田 恒夫	
自然と環境	
加藤 和弘	千代田区 ちよだ生物多様性大賞選定委員会/副座長 千代田区生物多様性推進会議/副座長 一般社団法人 環境情報科学センター/理事 文部科学省科学技術政策研究所 科学技術動向研究センター/専門調査員
岸根 順一郎	固体物理/編集委員
橋本 健朗	理論化学会 幹事選出委員会/委員 理論化学会 選出方法検討委員会/選挙制度検討委員
安池 智一	分子科学会 顕彰委員会/ポスター賞担当 理論化学会 理論化学討論会講演賞選考委員会/委員
公認心理師教育推進室	
桑原 知子	日本箱庭療法学会/理事長 日本ユング心理学会/副理事長 日本共創学会/副会長 日本心理臨床学会/代議員
障がいに関する学生支援相談室	
角田 哲哉	千葉県教育委員会(文部科学省委託事業)「ICTを活用した 自立活動の効果的な指導の在り方の調査研究」研究推進会議/座長 国立病院機構下志津病院研究倫理審査/委員 千葉県教育委員会開かれた学校づくり委員会 (四街道特別支援学校)/委員 四街道市特別支援教育専門家チーム/委員
岩手SC	
西崎 滋	いわて高等教育コンソーシアム運営委員会/委員 いわて高等教育コンソーシアム理事会/理事 滝沢市ラジオメディカルセンター放射線監視委員会/委員 岩手県原発放射線影響対策本部放射線影響 対策特命チーム/アドバイザー
福島SC	
千葉 悦子	郡山市勤労青少年ホーム運営委員会/委員 福島県男女共生センター/館長
栃木SC	
伊東 明彦	日本地震学会/学校教育委員 日本理科教育学会/評議員

学会、国、地方公共団体等での活動

所属氏名	職名/役職
石川SC	
千木 昌人	大学コンソーシアム石川/理事 小松市環境審議会/委員
岐阜SC	
野々村 修一	Grand RE2022国際会議組織委員会/委員 一般財団法人国際クラブ/理事 岐阜市 岐阜市中心市街地活性化委員会/委員長 岐阜県 地球温暖化対策実行計画懇談会/会長 岐阜県 新エネ・省エネ推進会議/委員長 羽島市 羽島市旧庁舎あり方検討委員会/副委員長 大垣市 大垣市地域再エネ導入戦略策定委員会/委員長
奈良SC	
井上 容子	日本建築学会 夜間景観WG/委員 日本建築学会 明視評価WG/委員 日本建築学会 窓・開口部規準改訂WG/委員 東大阪市営建替事業に係る事業者選定委員会/委員 大阪市屋外広告物審議会/会長 日本建築学会 色彩設計法小委員会/委員 奈良県大規模小売店舗立地審議会/委員 一般社団法人奈良県建築士会 専攻建築士審査委員会/評議員 奈良県廃棄物処理施設設置検討委員会/委員 日本建築学会 視環境設計小委員会/委員 日本建築学会 司法支援建築会議/会員 寝屋川市景観審議会/委員 守口市建築審査会/委員

所属氏名	職名/役職
奈良SC	
井上 容子	レーザー学会 光感性専門委員会/委員 堺市中高層建築物等紛争調停委員会/委員 奈良県収用委員会/委員 神戸市湾岸道路照明LED化ESCO事業委託 候補者提案審査委員会/審査委員 日本建築学会 文化賞選考委員会/委員
高知SC	
深見 公雄	国交省四国地方整備局/河川・渓流環境アドバイザー 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構 大学機関別認証評価委員会/専門委員
長崎SC	
山下 敬彦	電気・情報関係学会九州支部連合大会/委員長 電気学会/代議員 長崎市 長崎市産業技術審査委員会/委員 長崎県 長崎県研究事業評価委員会/委員長 九州環境エネルギー産業推進機構 情報・交流部会/幹事 長崎県 ながさき海洋・環境産業特区地域協議会/委員 ながさき海洋・環境産業特区海洋 エネルギーワーキンググループ/委員 長崎海洋産業クラスター形成推進協議会/委員 D-FLAG施設運営委員会/委員 九州パワーアカデミー 教育部会/委員 電気学会 論文委員会(A3グループ)/委員 照明学会/代議員 照明学会九州支部/幹事

講演会・学会発表

所属	講師	テーマ	主催等	開催年月日
生活と福祉	井出 訓	The Run Tomorrow initiative as a tool for building a dementia friendly community.	Ageing Asia 2021 World Ageing Festival	2021年10月8日
	川原 靖弘	Blockchain 3.0: Internet of Value - Human Technology for the Realization of a Society Where the Existence of Exceptional Value is Allowed, Junichi Suzuki, Yasuhiro Kawahara	the 4th International Conference on Human Interaction and Emerging Technologies (IHET-AI 2021)	2021年4月
		環境音における認知機能影響要素の抽出手法、 川原 靖弘、吉田 寛、Pierre MARET	電子情報通信学会 HCGシンポジウム	2021年12月
		外部リズムに対する同期タッピングにおける背側前部帯状回の役割、 植村真帆、今井絵美子、川原靖弘、望月圭子、古和久朋、小作浩美、片桐祥雅	第24回日本ヒト脳機能マッピング学会	2022年2月28日
		表情による感情認知と共感性醸成のメカニズムの 深部脳活動法による解明、杉浦朋伽、古崎未来、望月圭子、 川原靖弘、野口なつ美、植村真帆、今井絵美子、小作浩美、片桐祥雅	第24回日本ヒト脳機能マッピング学会	2022年2月28日
		食刺激が認知機能に及ぼす影響： 事象関連深部脳活動法による神経基盤の解明、 野口なつ美、植村真帆、川原靖弘、今井絵美子、望月圭子、片桐祥雅	第24回日本ヒト脳機能マッピング学会	2022年2月28日
		事象関連深部脳活動法によるEriksen-Franker-like Go/ Nogoタスク遂行の神経科学基盤、川原靖弘、野口なつ美、 今井絵美子、植村真帆、大谷啓尊、望月圭子、片桐祥雅	第24回日本ヒト脳機能マッピング学会	2022年2月28日
	関根 紀子	骨格筋ミトコンドリア酸素消費速度と ROS産生速度の測定： 横隔膜機能評価の場合	第76回日本体力医学会	2021年9月17日
		COVID-19パンデミック下における社会人学生の身体活動状況 -年齢・性別・感染不安の影響、関根紀子、奈良由美子、戸ヶ里泰典	第76回日本体力医学会	2021年9月17日
	戸ヶ里 泰典	Cooperative nursing professional education at the Open University of Japan	The 34th Annual Conference of the Asian Association of Open Universities (AAOU 2021)	2021年6月1日
		成人前期における健康観とヘルスリテラシーならびに健康との関連 -web 横断調査による検討-、白川雪乃、戸ヶ里泰典	第29回日本健康教育学会学術大会	2021年9月12日
		感染判明後4年未満のHIV 陽性者におけるストレス関連成長と スティグマの実態と推移 -当事者参加型リサーチによる 3回の調査結果より、戸ヶ里泰典、井上洋土、米倉佑貴	第29回日本健康教育学会学術大会	2021年9月12日
	奈良 由美子	新型コロナウイルス感染症のコミュニケーション(新型コロナ・自然災害・ 原発事故についていかに分かり合うのか-コミュニケーションを再考する-)	2021年度 科学技術社会論学会シンポジウム	2021年5月8日
		COVID-19パンデミック下における社会人学生の身体活動状況 -年齢・性別・感染不安の影響、関根紀子、奈良由美子、戸ヶ里泰典	第76回日本体力医学会	2021年9月17日
		レジリエンスとは(統一論題「東日本大震災10年 -レジリエンス力とリスクマネジメントの諸問題」)	日本リスクマネジメント学会第46回全国大会	2021年9月22日
		COVID-19 and Risk Communication	NIKKEI FT Communicable Diseases Conference, Special Session 6	2021年10月28日
		災害としてのCOVID-19パンデミックとリスクコミュニケーション (企画セッション「アフターコロナの社会・経済システム」)	社会・経済システム学会第40回大会	2021年10月31日

講演会・学会発表

所属	講師	テーマ	主催等	開催年月日
生活と福祉	奈良 由美子	新型コロナウイルス感染症とリスクコミュニケーション	第77回秋田県感染対策協議会研修会	2021年11月20日
		新型コロナウイルス感染症対策を通じたリスクコミュニケーションのあり方	臨海ホールディングスグループ幹部研修会	2021年11月26日
		リスクコミュニケーションの基本と要点	東京都病院協会 令和3年度幹部職員セミナー	2022年2月18日
		新型コロナウイルス感染症をめぐるリスクコミュニケーションの質的研究ー対話を通じた問題の素描	コロナELSIナイトーみんなで倫理的法的社会的課題を考える	2022年3月25日
心理と教育	岩崎 久美子	社会教育関係職員の学習需要ー経験資本との関連からー、岩崎久美子、赤尾勝己	日本生涯教育学会第42回大会	2021年11月28日
		成人への学習環境提供ー海外の大学の動向からの示唆ー	八洲学園大学SD研修会	2022年3月24日
		社会的な課題と生涯学習支援のための情報収集手段/地域における生涯学習の支援の重要性と方法	船橋市教育委員会 ふなばし市民大学校	2022年3月25日
		小川 正人 教職員のストレスマネジメントと学校の健康経営	「共育の杜」主催 オンライン研修	2021年4月25日
	学校「適正」規模の意味と学校再編取組みの課題	富山市・こどもの未来、学校の未来、TOYAMAの未来 創成フォーラム	2021年10月3日	
	「教育行政職」の実情と取組みの動向ー「教育行政職」の可能性を考えるー	愛知教育大学・教育行政職高度化シンポジウム	2022年3月5日	
	小林 真理子	がん教育に関する当事者の意識調査(1) ~がんを経験した親の立場から~、小林真理子、井上実穂、白石恵子、小嶋リベカ、大沢かおり	第26回日本緩和医療学会学術大会	2021年6月19日
	がん教育に関する 当事者の意識調査(2) ~がんの親を持つ子どもの立場から~、井上実穂、小林真理子、白石恵子、小嶋リベカ、大沢かおり	第26回日本緩和医療学会学術大会	2021年6月19日	
	進藤 聡彦	AYA心理相談外来の実践と課題、小林真理子、北野敦子、岩田多加子、鈴木美穂、橋本久美子、小澤美和、山内英子	第4回 AYAがんの医療と支援のあり方研究会学術集会	2022年3月20日
	高橋 秀明	ルールの予測機能の教授が課題解決に及ぼす効果、佐藤誠子、工藤志文、進藤聡彦	日本教授学習心理学会第17回年会	2021年6月26日
森 津太子	生涯学習の促進・抑制要因、進藤聡彦、岩崎久美子	日本教授学習心理学会第17回年会	2021年6月27日	
社会と産業	北川 由紀彦	アカデミック・ハラスメントの構造、北仲千里、横山美栄子、金子雅臣、進藤聡彦	日本教育心理学会第63回総会	2021年8月21日
		研究指導過程の記述ー同期コミュニケーションの観点からー	日本教育心理学会第63回総会発表論文集	2021年8月
	森 津太子	What kinds of eyes increase effect sizes of the watching eyes effect?, Tsutako Mori, Mieko Takahira, Masami Ikeda	The 32nd International Congress of Psychology (ICP 2020+)	2021年7月19日
	原 武史	東京における都市貧困層の動態(2) 福祉制度の利用は貧困層に何をもたらすか	日本社会学会大会(於 東京都立大学)	2021年11月14日
		皇太子明仁・美智子夫妻による「懇談会」と戦後デモクラシー	政治思想学会	2021年5月22日
		天皇の祈りと宗教	日本ピューリタニズム学会	2021年6月19日
		ちばの「歴史」~皇室との関係を中心として	ちば学リレー 講座2021	2022年1月29日
	松井 美樹	Quality Management and Sustainability Performance: A Comparative Study between Vietnamese and Japanese Enterprises, Minh Hue Nguyen, Anh Chi Phan, Yoshiki Matsui	The 31st Annual Conference of the Production and Operations Management Society	2021年5月5日
		Sustainability Performance: A Comparative Study between Vietnamese and Japanese Enterprises, Minh Hue Nguyen, Anh Chi Phan, Yoshiki Matsui	The 31st Annual Conference of the Production and Operations Management Society	2021年5月5日
		The impact of Supply Chain Quality Integration on Sustainability Performance, Minh Hue Nguyen, Yoshiki Matsui	オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会第13回全国研究発表大会	2021年11月20日
Achieving congruence of under supply uncertainty: A dynamic capability of Japanese manufacturing and service industries, Ylias Razafindrazaka, Yoshiki Matsui		オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会第13回全国研究発表大会	2021年11月20日	
李 鳴	保険法と市民生活ー生命保険と相続を中心に	神戸老眼大学	2021年11月18日	
人間と文化	稲村 哲也	Andean pastoralism and Illama's significance for the formation of Andean civilization from the view point of ethnography Out of Eurasia	International Academic Meetings in Mexico	2022年2月27日
		モンゴル戦争と信濃武士	長野県立長野高校金鶏会館	2021年4月24日
	近藤 成一	信濃国・志久見郷、市河家ゆかりの武家文書群「市河文書」を読み解く 第1回 木曾義仲の下文	長野県立長野高校金鶏会館	2021年8月5日
	信濃国・志久見郷、市河家ゆかりの武家文書群「市河文書」を読み解く 第2回 承久の乱における北条義時の手紙	長野県立長野高校金鶏会館	2021年8月6日	
	信濃国・志久見郷、市河家ゆかりの武家文書群「市河文書」を読み解く 第3回 信濃守護・北条重時の御教書	長野県立長野高校金鶏会館	2021年8月26日	
	信濃国・志久見郷、市河家ゆかりの武家文書群「市河文書」を読み解く 第4回 建武の新政と市河氏	長野県立長野高校金鶏会館	2021年8月27日	
	モンゴル戦争と信濃武士 その2ー「蒙古襲来絵詞」を読み解くー	長野県立長野高校金鶏会館	2021年9月25日	
	鎌倉時代の加賀・能登の守護	ののいちコミュニティカレッジ	2022年2月25日	
	滝浦 真人	A View of the Development of Im/Politeness Theories from an East Asian Language with Honorification	17th China Pragmatics Association @Dalian, CHN	2021年10月17日
	野崎 歆	近現代日本語における授受表現と敬語の語用論ー聞き手意識による変容を捉えるー青木博史、加藤重広、森勇太、滝浦真人、吉田永弘	『語用論と日本語研究』日本語学会 2021年度秋季大会シンポジウム@オンライン	2021年10月31日
	[ディスカッション]多層的な日本語の語用論と東アジアの語用論 小林隆、中西太郎、津田智史、椎名渉子	『語用論的方言学への招待』日本語用論学会 第24回大会シンポジウム@オンライン	2021年12月19日	
	文学は逆転であるーボードゲームとフローゲーム、生誕200周年に寄せてー	名古屋外国語大学	2021年10月29日	

講演会・学会発表

所属	講師	テーマ	主催等	開催年月日
情報	浅井 紀久夫	青色光でのホログラフィ動画の再生特性について、高野邦彦、岩永慎三郎、境健太郎、佐藤甲斐、浅井紀久夫	画像電子学会年次大会	2021年6月
		CNNを用いた手書き楽譜の音楽記号認識、楡木徹、浅井紀久夫	FIT 情報科学技術フォーラム	2021年8月26日
		On the colored holographic moving pictures employing the blue-violet color light source, Kunihiko Takano, Shinzaburo Iwanaga, Kentaro Sakai, Koki Sato, Kikuo Asai	International Workshop on Advanced Image Technology (IWAIT 2022)	2022年1月
		Influences of network delay and movement velocity under adaptive viscoelasticity with prediction, Chen, L, Ishibashi, Y, Huang, P, Tateiwa, Y, Ohnishi, H	電子情報通信学会コミュニケーションオリティ研究会	2021年11月18日
	芝崎 順司	複数機関の大学生を対象としたデータサイエンスに関する数学的基礎能力の測定とその影響要因の調査、辻靖彦、秋葉広人、芝崎順司	日本教育工学会2022年春季全国大会	2022年3月
	辻 靖彦	文系大学生を対象としたデータサイエンス教育のためのリメディアルチェックテストの開発と実施、辻靖彦、秋葉広人、芝崎順司、松野由希、村上玲、矢尾板俊平	教育システム情報学会第46回講演論文集 pp.1-14, pp.27-28	2021年9月
		コロナ禍における大学教員のICT利用実態に関する調査結果ーコロナ禍初期2020年5・6月における動向ー、辻靖彦、高比良美詠子、稲葉利江子、田口真奈	日本教育工学会2021年秋季全国大会	2021年10月
		大学におけるICT環境の規模別導入状況の現状と経年変化、稲葉利江子、酒井博之、辻靖彦、平岡齊士、重田勝介	大学ICT推進協議会2021年次大会 FD2-2, pp.307-312	2021年12月
		大学におけるICT活用教育の支援組織の現状と教員・学生に対する支援の変化、酒井博之、稲葉利江子、辻靖彦、平岡齊士、重田勝介	大学ICT推進協議会2021年次大会 FD2-1, pp.300-306	2021年12月
		保育士・幼稚園教諭を目指す学生の自宅ピアノ練習内容の追加調査ー録音データ、アンケート、半構造化インタビューからー、林麻由美、田中功一、辻靖彦	音楽教育メディア学会研究会	2022年2月
	複数機関の大学生を対象としたデータサイエンスに関する数学的基礎能力の測定とその影響要因の調査、辻靖彦、秋葉広人、芝崎順司	日本教育工学会2022年春季全国大会	2022年3月	
	「知見マップ」構築を目的としたプログラミング教育実践調査ー教材・学齢・教科による考察ー、山本樹、稲垣忠、金子大輔、國宗永佳、倉山めぐみ、下郡哲夫、辻靖彦、村上正行	教育システム情報学会2021年度 第6回研究会研究報告, vol.36, no.6, pp.141-148	2022年3月	
中川 一史	算数科における AI 型及び非 AI 型ドリル教材を用いた復習に関する考察、津下哲也、佐藤幸江、中川一史	AI時代の教育学会研究会予稿集2021年度第1号、pp.7-9	2021年6月	
	小学校国語学習者用デジタル教科書の本文抜き出し機能を活用した高学年と中学年の授業における指導方略、浦部文也、佐藤幸江、中川一史	AI時代の教育学会研究会予稿集2021年度第1号、pp.5-6	2021年6月	
	学習者用デジタル教科書・教材を活用する「学習指導案」に関する評価、佐藤幸江、鷹野昌秋、森下耕治、中川一史	AI時代の教育学会研究会予稿集2021年度第1号、pp.1-4	2021年6月	
	小学校国語学習者用デジタル教科書の本文抜き出し機能を活用した児童の意識調査、小林祐紀、河崎睦、中川一史	日本教育メディア学会研究会論集、第51号、pp.31-34	2021年7月	
	AI型ドリル教材を用いた小学校算数科「分数のたし算とひき算」の復習における正答率の変化とタイプ別誤答分析、津下哲也、佐藤幸江、中川一史	日本STEM教育学会 第4回年次大会(2021)、pp.15-18	2021年10月	
	学習者はメディアを通してどのように教室と家庭の学びをつなげていくかー教室でのディベート学習と家庭での「ロンドリのちから」の視聴による学習を連携させた単元を通してー、渡邊光輝、中橋雄、村井万寿夫、中川一史	日本教育メディア学会 第 28 回 年次大会 発表論集、pp.19-22	2021年12月	
	国語学習者用デジタル教科書「本文抜き出し機能」を用いた 学習における分類手段と画面構成の分析、鷹野昌秋、佐藤幸江、森下耕治、中川一史	日本教育メディア学会 第 28 回 年次大会 発表論集、pp.123-124	2021年12月	
	小学校国語科「低・中・高学年別情報活用能力ベースック」の提案、佐藤幸江、中川一史、小林祐紀、渡辺浩美	日本教育メディア学会 第 28 回 年次大会 発表論集、pp.119-120	2021年12月	
	児童の振り返りを蓄積し授業改善を支援するWebアプリの開発と試用、小林祐紀、福田晃、中川一史、森下純一、島聰隆、鈴木広則	日本STEM教育学会2022年3月拡大研究会一般研究発表予稿集、pp.29-32	2022年3月	
	図画工作科におけるプログラミングを取り入れた単元開発、佐藤幸江、中川一史	日本STEM教育学会2022年3月拡大研究会一般研究発表予稿集、pp.25-28	2022年3月	
中谷 多哉子	要求工学的知識体系REBOKの活用について	要求工学的知識体系の講演会	2021年5月24日	
葉田 善章	3軸加速度データを用いた指揮法の評価手法の開発、安田隆、葉田善章	第132回音楽情報科学研究発表会	2021年9月16日	
	学習素材の再利用を目指した授業コンテンツ制作支援システムの構築	日本教育工学会 2022年春季全国大会(第40回大会)講演論文集	2022年3月20日	
三輪 真木子	高齢者のICTスキルとヘルスリテラシー	日本図書館情報学会春季研究集会	2021年5月15日	
山田 恒夫	Digital Badge as an e-Certificate of Informal Education Program: A Case Study at Open University of Japan Yamada, T, Fushimi, K, Saitoh, S, Higuchi, T, Okada, M	AAOU Annual Conference 2021	2021年6月1日	
	GIGAスクール構想での「個別最適な学び」を後押しする国際技術標準、白井克彦、桐生崇、藤村裕一、山田恒夫、秦隆博、島田浩史	NEW EDUCATION EXPO 2021	2021年6月4日	
	IMS ビギナーズ セッション、山田恒夫、藤原茂雄	IMS Japan Conference 2021	2021年9月9日	
	CASEとCASE Network	IMS Japan Conference 2021	2021年9月11日	
	OpenSALTの高等教育・生涯学習分野での適用事例	CASE研究会第3回例会	2021年10月11日	
	IMS Japantラック「一人1台PC学習環境による新しい学びとIMS技術標準」、山田恒夫、常盤祐司、島田浩史、下川和男、佐々木公博、森下誠太	eラーニングアワード2021フォーラム	2021年11月12日	
	教育DXを推進するオープンバッジの最新動向、山田恒夫、秦隆博、田中恵子、吉田俊明	eラーニングアワード2021フォーラム	2021年11月16日	
	オープン教育資源(OER)の最新動向と課題、山田恒夫、重田克介、深澤良彰	大学ICT推進協議会(Axies)2021年度年次大会学術・教育コンテンツ共有流通(CSD)部企画セッション	2021年12月17日	
	デジタルバッジを利用したボランティア活動参加電子証明書の設計と運用、山田恒夫、富田育磨、野村悠司	国際ボランティア学会第23回大会	2022年2月20日	

講演会・学会発表

所属	講師	テーマ	主催等	開催年月日
自然と環境	大森 聡一	Network-Based Remote Laboratory In Distance Education: Scanning Electron Microscopy Experiment, Soichi Omori	The 34th Annual Conference of the Association of Asian Open Universities	2021年6月3日
	加藤 和弘	Rivers can be important movement corridors for waterbirds in central Tokyo, Japan, Takeshige, S, Katoh, K	Annual Conference 2021, International Consortium of Landscape and Ecological Engineering (ICLEE)	2021年11月26日
		2000年噴火後の三宅島における鳥類群集の回復とそれに関わる環境条件 加藤和弘、樋口広芳	環境情報科学センター企画セッション「三宅島2000年噴火以降の生態系回復過程のモニタリングとその課題」	2021年12月9日
		衛星データに見る三宅島2000年噴火後20年間のランドスケープ変化 高橋俊守、上條隆志、加藤和弘	環境情報科学センター企画セッション「三宅島2000年噴火以降の生態系回復過程のモニタリングとその課題」	2021年12月9日
		科学的探求を基にグローバルコンピテンシ育成を図るSTEM教育、真山茂樹、熊谷あすか、里見研悟、Mathew Julius, Karthick Balasubramanian, 加藤和弘、大森聡	日本STEM教育学会	2022年3月5日
	三宅島2000年噴火被害地における21年後の鳥類群集と11年間の変化 須藤七海、加藤和弘、吉川徹朗、上條隆志	第69回日本生態学会大会	2022年3月15日	
	谷口 義明	宮沢賢治と一緒に銀河鉄道に乗ろう	駿台学園	2022年3月19日
	安池 智一	固体モデル系に対する解析表現可能な複素吸収ポテンシャルの開発、今村洸輔、安池智一、佐藤啓文	第15回分子科学討論会	2021年9月
		魔法数クラスターの球対称Nilsson模型における理想プラズモン状態、柴田清彦、安池智一	第15回分子科学討論会	2021年9月
岩手SC	西崎 滋	福島第1原発処理水の海洋放出の問題について 分科会テーマ「福島第1原発の汚染水処理について考える」	岩手県生協連 岩手県消費者大会	2021年8月20日 2021年10月27日
福島SC	千葉 悦子	原発事故後の福島から一食と農の再建を模索する避難女性農業者たち	日本技術士会農業部会	2021年4月
		「ともに生き、地域をひらく」生涯学習-社会教育施設・公民館への期待」講師	郡山市教育委員会(生涯学習職員専門研修)	2021年11月
		「『生理の貧困』から見えてくるもの」講師	福島ロータリークラブ	2022年2月
		「女性の地位向上について」講師	二本松ロータリークラブ	2022年3月
東京文京SC	林 徹	Contribution of "indecisive" consultants to linguistic research	20th International Conference on Turkish Linguistics	2021年8月2日
奈良SC	井上 容子	タスク&アンビエント照明に関する研究-4種の調光形式における適切な調光速度の検討-, 小谷美由紀、井上容子	日本建築学会2021年度大会 学術講演梗概集 D-1 環境工学 I	2021年9月10日
		年齢層と生活行為に配慮した照明の適正化に関する研究 (その3) 照度・色温度変化に対する不快率の予測、丹後みづき、井上容子	2021年度(第53回)照明学会全国大会講演論文集	2021年9月21日
		視野内の色が照明の印象に及ぼす影響-照明の明るさ・色味と色分布・照度・色温度の関係-, 土山和華子、井上容子	2021年度(第53回)照明学会全国大会講演論文集	2021年9月22日
和歌山SC	宗森 純	YouTubeチャンネルの投稿動画数や動画再生回数の推移に基づく登録者数分析、松清綾大、伊藤淳子、吉野孝、宗森純	情報処理学会関西支部支部大会G-76	2021年9月
		ARを用いた現在地の津波情報可視化システムの開発、藤田朝陽、伊藤淳子、宗森純、吉野孝	情報処理学会関西支部支部大会G-16	2021年9月
		遠隔環境における音量と距離に基づいた演劇稽古支援システムの開発、渡邊真也、伊藤淳子、宗森純、吉野孝	情報処理学会関西支部支部大会G-61	2021年9月
		遠隔会議における積極的な会話を促すオンラインアイスブレイクシステムの開発、古居巧真、伊藤淳子、宗森純、吉野孝	情報処理学会関西支部支部大会B-09	2021年9月
		遠隔会議サービスを用いたWork Attitude推定手法の検討、北林拓磨、伊藤淳子、宗森純、吉野孝	情報処理学会関西支部支部大会B-01	2021年9月
高知SC	深見 公雄	Effects of the Monomeric Components of a Biodegradable Polymer PHBH on the Growth of Pathogenic <i>Vibrio parahaemolyticus</i> in vitro and on the Survival of Infected Kuruma Shrimp (<i>Macrobrachium rosenbergii</i>), Fukami, K, Takagi, F, Sonoda, K, Okamoto, H, Shimizu, S, Ishigo, K, Takahashi, M, Kaneno, D, Horikawa, T, Takita, M	The 14th Kuroshio Science International Symposium, Kochi (on-line)	2021年11月13日

表彰・受賞

所属	氏名	表彰・受賞内容	年月日
人間と文化	大橋 理枝	放送大学 学長奨励賞 優秀授業賞「英語で『道』を語る」	2022年3月
	野崎 敏	小西国際交流財団 第26回日仏翻訳文学賞特別賞 放送大学 学長奨励賞 研究功績賞	2021年4月 2022年3月
情報	中谷 多哉子	ソフトウェア技術者協会、ソフトウェアシンポジウム 2021 in 大分、論文奨励賞 深層学習を用いたプログラム品質向上のためのソースコード画像分析手法の提案	2021年6月
		ソフトウェア技術者協会、ソフトウェアシンポジウム 2021 in 大分、論文奨励賞 ソフトウェア信頼度成長モデルとベイズ統計機械学習によるオープンソースソフトウェア動的信頼性モデルの提案	2021年6月
自然と環境	岸根 順一郎	国立研究開発法人物質・材料研究機構、 文部科学省ナノテクノロジープラットフォーム令和3年度秀でた利用成果優秀賞	2022年1月
	谷口 義明	日本天文学会、日本天文学会英文報告賞(第26回)、 Big Three Dragons: A z = 7.15 Lyman-break galaxy detected in [O III] 88 μm, [C II] 158 μm, and dust continuum with ALMA, Hashimoto, T., et al. 2019, PASJ, 71, id. 71 DOI: 10.1093/pasj/psz049	2022年3月4日

その他の社会貢献

所属	氏名	社会貢献活動内容	実施年月日	所属	氏名	社会貢献活動内容	実施年月日	
生活と福祉	戸ヶ里 泰典	沖縄県立看護大学 大学院講師「ヘルスプロモーション・健康教育II」		情報	中谷 多哉子	独立行政法人 情報処理推進機構 IPA新白書有識者委員会委員		
		山梨県立大学 大学院講師「基礎看護学III」				ソフトウェア技術者協会 ソフトウェアシンポジウム 2021 in 大分 技術者にとってのリカレント教育・社会人大学・大学院の選択		
		東京医科歯科大学 大学院保健衛生学研究所 高齢社会看護システム管理学 大学院講師「高齢社会看護システム管理学特論I」			葉田 善章	東京都羽村市生涯学習センターゆとろぎ先端テクノロジー講座 ゆとろぎイベントガイド Vol.118 講師「全世界を結ぶインターネット…その仕組みと利用」		
		東京医科歯科大学教養部 講師「スポーツ・健康科学」講義「健康生成論」			広瀬 洋子	NPO法人 FirstStep:引きこもり支援 理事		
		順天堂大学大学院看護医療学研究所 講師「応用統計学」			三輪 眞木子	Schothai Thammathirat Open University, Ph.D. Program, Foreign Guest Professor		
	奈良 由美子	全国大学生協済生活協同組合連合会 「大学生の生活リスク講座」プロジェクトメンバー			山田 恒夫	AAOU Asian MOOCs Steering Committee Member		
		政策研究大学院大学 防災連続セミナー 講師「災害心理とリスクコミュニケーション」[リスクへのアプローチ]「レジリエンスとは何か」				e-Learning Awards フォーラム実行委員会委員		
		奈良女子大学大学院人間文化研究科(博士課程後期課程) 非常勤講師「共生生活経営学」,「共生生活経営学演習」				国際共同研究: ASEM生涯学習Hub(ASEM Education and Research Hub for Lifelong Learning, ASEM-LLL Hub)研究ネットワーク investigator		
		株式会社バリエイティブエム 番組審議会/委員				国際共同研究: eASEMプロジェクト(アジア欧州会合、生涯学習研究ポータル構築、白書作成プロジェクト) メンバー		
	山田 知子	社会福祉法人恩賜財団済生会 中央治験審査委員会委員 コープみらい/理事(学識経験者)				国際NPO(Global Learning Object Brokered Exchange (GLOBE)), Business/Stewardship Council Member		
心理と教育	苑 復傑	一橋大学・森有礼高等教育国際流動化センター 客員研究員		自然と環境	石崎 克也	Mathematical Review, Reviewer		
	小林 真理子	家庭裁判所調官養成課程合同研修 講師「描画法-描画の臨床的適用・SHTP法を中心に-」				Aequationes Math., Editor		
		東京女子大学 現代教養学部 非常勤講師「健康・医療心理学」				Zentralblatt MATH., Reviewer		
	高橋 秀明	東京家政大学大学院人間生活総合研究科 非常勤講師			加藤 和弘	International Consortium of Landscape and Ecological Engineering, Editor		
	森 津太子	東京女子大学 現代教養学部 非常勤講師			岸根 順一郎	東京大学教養学部 非常勤講師		
社会と産業	児玉 晴男	和光大学 経済経営学部 非常勤講師			隈部 正博	アメリカ数学会、Mathmatical Reviews, Reviewer		
		国士舘大学 法学部 非常勤講師			谷口 義明	『週刊現代』講談社、2022年1月29日号・2月5日号、 「あの日、『学生街の喫茶店』で僕はあの歌を聴いていた」152-155頁 『河北新報』河北新報社、2022年3月1日、「名作復活『銀河鉄道の夜』を天文学の視点から読み解く」 放送大学宮城オンライン講演会 採録、第6面 糸杉と満巻に取り憑かれた画家、「KamoZine」 (千葉県鴨川市、かまがわナビ)、2021年夏号(第37号)、6 2021年5月 夜空の渦巻から銀河鉄道へ、「KamoZine」 (千葉県鴨川市、かまがわナビ)、2021年秋号(第38号)、5 2021年9月 ワカンナ145分、「KamoZine」 (千葉県鴨川市、かまがわナビ)、2022年春号(第39号)、1 2022年1月		
		国士舘大学 大学院総合知的財産法理学研究科 非常勤講師			橋本 健朗	理論化学会 理論化学会選出方法検討委員会		
	坂井 素思	神奈川大学経済学部非常勤講師			安池 智一	東京大学「構造化学」講師 立教大学「物理化学応用特論4」講師 分子科学夏の学校「プラズモンの分子科学」講師 立教大学 特別講義「分子システムにおける光機能の物理化学」講師		
	白鳥 潤一郎	立教大学 法学部 兼任講師		障がい学生	角田 哲哉	東京情報大学(特別支援教育)/非常勤講師		
	原 武史	寄稿 日経Think! エキスパート 寄稿 朝日新聞土曜版be連載「歴史のダイアグラム」 日中文化交流協会常任委員 かわさき市民アカデミー講師		青森SC	浅野 清	青森県高等学校文化連盟 「第42回青森県高等学校総合文化祭 日本音楽部門」審査員 青森県ジュニアピアノコンクール実行委員会 「第19回青森県ジュニアピアノコンクール」審査員		
人間と文化	大橋 理枝	「体も口ほどにモノをいう?〜ウィズコロナにおけるコミュニケーション〜」 週刊東洋経済 放送大学教養講座 2021年7月18~24日		宮城SC	高橋 満	仙台市社会教育委員の会議 委員長		
	河原 温	書評「天国と地獄、あるいは至福と奈落-ネーデルラント美術の光と闇」、 図書新聞 2022年1月29日(3528) 6面-6面		福島SC	千葉 悦子	大阪市立男女共同参画センター 「福島のこれまでとこれから トークLIVE2021」パネリスト 2021年6月 福島県男女共生センター 福島県男女共生センター 開館20周年記念トークイベント「復興10年、 ふくしまで自分らしく生きるとは」パネリスト、司会 2022年2月 福島大学「生活構造論」講師		
	滝浦 真人	国際日本語普及協会(AJALT)研修会講師(「語用論から見た日本語の性格」) 2021年10~11月 令和3年度国語問題研究協議会 文化庁 シンポジウム 「今求められるコミュニケーション」 2021年11月24日			石川SC	千木 昌人	石川化学教育研究会/会長	
	宮本 徹	東京大学東洋文化研究所・班研究 「中国古代文献の成立に関する多角的研究」研究協力者 中央大学経済学部兼任講師			福井SC	小野田 信春	福井大学大学院集中講義「群の作用と不変部分環」講師	
情報	青木 久美子	Asuka Academy理事 Board of Directors, TCCHAWAII.org			滋賀SC	平井 肇	高校生のスポーツ交流 助言・指導 タイ国チェンマイ・ラジャパット大学日本センター顧問	
	秋光 淳生	東京大学教養学部非常勤講師 千葉大学非常勤講師		高知SC	深見 公雄	Editorial Board member of the journal of "Hydrobiology" MDPI, Hydrobiology Editorial Office		
	浅井 紀久夫	東京都立産業技術高等専門学校 映像工学 講師						
	大西 仁	朝日大学経営学研究所 博士論文審査、助言・指導						
	加藤 浩	熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻						
	辰己 丈夫	千葉大学理学部非常勤講師「情報科教育法」 東京大学非常勤講師 教養学部「情報」 東京大学非常勤講師 理学部・工学部・教養学部「情報科教育法」 「情報科教育法II」						
	辻 靖彦	日本女子大学人間社会学部教育学科 教育方法・技術(中高)C(非常勤講師)						

学習センター・学生の活動

周年記念式典・文化祭

毎年、多くの学習センターで文化祭を開催し、学生の学習成果や学生団体(サークル)活動の成果を発表、披露している。また、学習センター及びサテライトスペースの設立を記念した周年記

念式典も開催されている。今年度は、多くのイベントが中止されたが、いくつかの学習センターでは感染防止対策を講じた上で開催した。

香川学習センター 開設30周年記念事業

香川学習センター開設30周年を記念して、2021年10月9日(土)、記念式典、記念演奏会と記念講演会を開催した。当日は藤本高松市教育委員会教育長、石野高松市中央図書館館長、大平前香川学習センター所長をはじめ近隣の学習センター所長、学友会、同窓会役員、前任教職員の方々のご臨席

をいただきお祝いと励ましのお言葉をいただいた。また、この度はコロナ禍での開催となり、ご案内を限らせていただいたことから YouTube 同時配信の試みも取り入れ会場と併せて100名を超える皆様に参加していただいた。



■ 記念式典(13:30~)

岩永雅也学長の式辞のあと、有馬道久所長から主催者挨拶が述べられ、来賓を代表して算善行香川大学長、工代祐司香川県教育委員会教育長から祝辞をいただいた。また、穴吹医療大学校横倉益弘校長からも祝電をいただき披露した。当日は、コロナ禍での開催となり祝辞はビデオメッセージとなったが YouTube 同時配信も取り入れ新たな形での式典となった。



■ 記念演奏会及び記念講演会(14:30~)

最初に、記念講演でも紹介される安山岩サヌカイト(カンカン石)を体感してもらうため、講演に先立ち林千景先生(サヌカイトフォーン演奏)、波多翼先生(ピアノ演奏)による記念演奏会が開催された。参加者はサヌカイトフォーンの澄んだ音色と演奏に魅了されていた。

続いて、記念講演会は、『大地の成り立ちから地域における暮らしと学びを考える』と題して、長谷川修一放送大学客員教授(香川大学特任教授)から講演をいただいた。長谷川先生は専門の地質工学の立場から地域におけるジオパーク構想、そして人材育成、学びの在り方等についてお話しされ盛会のうちに閉会となった。

熊本学習センター 30周年記念式典・講演会報告



2021年11月23日(火)に熊本学習センター開設30周年記念式典・講演会を熊本学習センター3階大講義室にて執り行った。当日は、岩永雅也学長をはじめ、多くの方にご出席いただいた。記念講演会では、本センター客員教員の稲葉継陽先生(熊本大学永青文庫研究センター長)による「織田信長文書の宝庫・熊本—その背景と現代的意味—」、同じく客員教員の慶田勝彦先生(熊本大学大学院人文社会科学部教授)による「熊本大学文書館とく水俣病>事件アーカイブズ研究」と両氏とも熊本をテーマにしてご講演いただいた。コロナ禍のため、当日は会場人数を制限しながら、オンラインでの配信も行った。



第6回文化祭を終えて 熊本学習センター同窓会 熊放会 会長 福田英幸

11月23・24日の両日、熊本学習センター第1講義室において文化祭を開催した。同窓生や在学生その他関係者の方々に絵画・写真・書など多くの作品を出品していただいた。23日には熊本学習センター開設30周年の記念式典が行われたこともあり、多数の方に来場・鑑賞していただくことができ、成功裏に終えた。作品を出品していただいた皆さんや運営にご協力いただいた学習センター職員の皆さん・同窓会の皆さんに感謝し、お礼を申し上げたい。



2021年度 周年一覧

SC/SS	宮城	秋田	東京多摩	石川	岐阜	滋賀	大阪	奈良	島根	福山SS	香川	熊本	宮崎
設置年度(西暦)	平成3(1991)	平成8(1996)	平成13(2001)	平成3(1991)	平成3(1991)	平成8(1996)	平成3(1991)	平成8(1996)	平成8(1996)	平成13(2001)	平成3(1991)	平成3(1991)	平成8(1996)
2021年	30周年	25周年	20周年	30周年	30周年	25周年	30周年	25周年	25周年	20周年	30周年	30周年	25周年

鳥取学習センター 拡大まつり開催報告



10月31日(日)から11月7日(日)まで、拡大まつりを開催した。

昨年は新型コロナウイルス感染防止のため作品展示のみとなったが、今年は、卒業研究発表会も開催した。

■ 作品展

鳥取市立中央図書館ギャラリーにて、拡大まつりの作品展示を行った。今年と同じ建物内にある図書館のギャラリーをお借りして、放送大学以外の方にもご覧いただけるようにした。展示作品は、水彩画、書、折り紙等計26点。作品の展示が例年より若干少なかったため、空きスペースを放送大学の授業科目紹介とその関連事項の説明や学習センターの学生生活の紹介、さらに放送大学のPRに充てた。

さらに、放送大学のPRコーナーでは、①いつでも学べる放送大学、②学習フロー、③入学科・授業料等、④国立大学との授業料の比較を4枚のパネルで紹介した。

なお、会場には作品目録も置いたが、28名の方がお持ち帰りになった。実際には、もっと多くの方が作品をご覧になっていたの、来場者数はかなりの数と推察される。

作品撤収後の懇談会では、早くも「次年度はもっとにぎやかな計画を」との意見がでていた。

作品は、水彩画7点、書8点、折り紙11点。これらは、普段からの取り組みの成果物である。サークル活動紹介では、ジオ部、和風サークル「さつき」からポスター、書に親しむ会からは書の展示があった。これらは、日ごろからの熱心な活動の賜物だ。放送大学の授業科目紹介とその関連事項の説明スペースでは、①東日本大震災を見つめる(授業科目「災害社会学('20)」)、②東日本大震災は想定外か、③地球温暖化を勉強する(授業科目「地球温暖化と社会イノベーション('18)」)、④真鍋淑郎博士の業績、と題して4つのパネルで紹介した。



■ 卒業研究発表会

拡大まつりの最終日には、第2回卒業研究発表会を開催した。この発表会は、拡大まつり実行委員会で作品展示以外にも何かやろうと計画したものだ。発表されたのは、令和3年3月に学部を卒業された武田由美子さん、渡部淳一さんのお二人である。

■ 第1部

武田さんは、「『源氏物語』論一紫の上の生涯と仏教との関わり」と題し、源氏物語は単なる恋愛物語ではなく、苦悩する女性の生涯を、仏教との関わりを通じて描いた壮大な人間ドラマであると発表された。

■ 第2部

渡部さんは、「鳥取県西部の皆生温泉の泉質に関する研究」の発表をされた。渡部さんは温泉巡りを趣味にされており、お住いの近くの皆生温泉の泉質に関する研究についてのものであった。

それぞれの発表後には多くの質問があり、お二人から丁寧な分かりやすい回答があった。あっという間に予定されていた1時間は過ぎ、盛会のうちに終了となった。



入学者の集い・学位記授与式

3月下旬～4月上旬及び9月下旬～10月上旬に各学習センターで開催された。今年度はオンラインでの開催を試みる学習センター

もあったが、対面で開催した愛知学習センターの様子を紹介する。

愛知学習センター 2021年度 第1学期 学位記授与式



2021年度第1学期学位記授与式を、9月26日(日)に中京大学ヤマテホールにて開催した。授与式には、学士(教養)の学位を取得された93名のうち、23名の方が出席した。授与式は、新型コロナウイルス感染症対策を行いつつ開催され、氏家所長から卒業生一人ひとりに学位記が授与された。学位記授与後には、所長から卒業・修了生への祝辞があり、古田 健さんから卒業生代表謝辞があった。



2021年度 第2学期 入学者の集い

2020年度第1学期以降中止としていた入学者の集いについて、新型コロナウイルス感染症の感染リスクを避けるため、Web会議システムZoomを利用して10月10日(日)に開催した。今回の入学者の集いには2021年度第2学期入学者に加え、中止となった2020年度第1学期から2021年度第1学期入学者も含めて開催した。

当日は氏家所長の祝辞及び岩永学長の祝辞(録画再生)に続き、客員教員の紹介が行われた。その後、職員による学修に関するオリエンテーション、学生による学友会・サークル紹介が行われた。

学生研修旅行

学習センターでは、学習活動の一つとして、研修旅行を年1回程度開催している。研修旅行は、学生・教職員の親睦のよい機会ともなっている。訪問先は、学術機関、地域の名所・旧跡、体験学習など多彩である。



高知学習センター 学生研修旅行

2021年11月20日(土)に学生研修旅行で、坂本龍馬記念館と桂浜水族館を訪れた。通常の研修旅行は、貸切バスで四国の施設を訪問するなど、遠方へ出かけていたが、今回はコロナの影響で近くの施設訪問となり、現地集合、現地解散で実施した。学生8名に加え、深見所長と中山事務長が参加し、楽しい研修旅行となった。



坂本龍馬記念館

桂浜水族館

坂本龍馬記念館では、蝦夷地での活動を計画していた龍馬について、特別展「龍馬と北の大地」の開催や宮内庁所蔵の龍馬自筆の本物の手紙が9点展示されており、参加者の注目を集めていた。

桂浜水族館では、ペンギンとアシカなどの飼育エリアを見学した。水族館の飼育員がペンギンを柵から出してくれ、ペンギンの歯並びなどを間近で見学しながら生態などの説明を受けた。また、隣のエリアで泳いでいた赤ちゃんアシカの「コエル」を飼育員がプールから出して抱き上げると、まだ、母乳を飲んで「コエル」は飼育員の顎を母アシカの乳首と思って幸せそうに吸ってお

り、その姿がとても愛らしく、参加者は嬉々として見入っていた。ウミガメの水槽では、ウミガメは顎の力が強く噛まれると危険であるとの説明を受けた後、餌やりを体験し、魚の展示コーナーでは、それぞれの魚について「調理すると美味しいとか、食べないほうが良い」など、水族館職員が作成したユニークな文章が掲示されており、楽しく見学できた。

桂浜水族館は、全国的には小規模な施設であるが、展示方法や職員の工夫などにより大型の水族館に引けを取らない魅力があることが分かり、予算や規模に頼らない運営方法は大きい参考となった。

久しぶりに顔を合わせた学生たちが、笑顔で見学をしている様子を見ると、コロナの影響で小規模な研修旅行となったが、実施して良かったと実感した。

公開講演会

学習センターでは、誰でも参加できる公開講演会、公開講座、シンポジウム等を多数開催している。本学教員に加え、各地域や分野で活躍する多彩な方々を講師にお招きし、本学学生に限ら

ず、地域の人々に役立つ様々な話題について最新の知識が得られ、共に考える機会を提供した。今年度は中止や延期も多かったが、実施できた講演から2件を紹介する。

新潟
学習センター

テーマ 「超高齢先進地域である佐渡から新潟県、日本、世界の医療の未来を考える」

講師 井口 清太郎(新潟大学大学院医歯学総合研究科新潟地域医療学講座地域医療部門特任教授)

会場 アミューズメント佐渡

佐渡市教育委員会との共催で、9月24日(金)にアミューズメント佐渡において、新潟大学大学院医歯学総合研究科新潟地域医療学講座地域医療部門特任教授井口清太郎先生を講師に「超高齢先進地域である佐渡から新潟県、日本、世界の医療の未来を考える」と題し、69名の参加者に対しご講演をいただいた。

講演では、先生ご自身が地域医療に関わるきっかけとなった2005年から新潟大学で地域医療の教育に携わったことなどの経歴紹介から始まり、日本は世界一の超高齢化社会で、都道府県別では新潟県の高齢化率は32.4パーセントで全国第13位、その中で佐渡市の高齢化率は42.4パーセントで県内第6位と高齢化が進んでいること、佐渡の人口構成は日本の平均を20年先取りしていること、さらに、佐渡市の年齢別人口構成を見ると、新潟市に比べ20歳代から60歳代の人口が減り、80歳代から90歳代が増えているとの説明があった。日本はここ30年で一気に超高齢化社会となり、それに伴い医療側では多疾病併存や誤嚥性肺炎、骨折、要介護者が増加しており、人口の年齢構成の変化に伴って医療側も変化する必要があると述べられた。

また、佐渡の医療資源は乏しく厳しい状況にあり、今後も佐渡の人口はどんどん減っていくので、それに伴って医療需要、介護需要も減っていくと述べられた。そのことは医療機関の収益減に結び付くが、医療機関が医療に掛かる経費を減らすことは難しく、医療はインフラと同じく止めるわけにはいかず継続性が大切なため、地域の連携により医療を補う必要があると強調された。

暗い話題だけではなく、佐渡には明るい取り組みとして「さどひまわりネット」という患者の情報が医療・福祉・介護で共有できる素晴らしいシステムがあり、医療と介護が連携しており希望が見えると述べられた。さらに、超高齢化社会の佐渡で行われている様々な試みは、そのまま未来社会のスタンダードを作るモデルになり、将来の日本、世界で役に立つものになるとの説明があった。

高齢者医療の未来について佐渡から熱く語られる井口先生

埼玉
学習センター

テーマ 「みづかな宇宙と想像外の宇宙」

講師 井上 直也(埼玉学習センター客員教授)

会場 さいたま市宇宙劇場

9月5日(日)、埼玉学習センター客員教授の井上直也先生による講演会が行われた。埼玉学習センターと同じJACK大宮ビルの3Fにあるさいたま市宇宙劇場とのコラボで、昨年の伊藤博明先生による講演に続いて2回目となる“宇宙にまつわる”内容で、地球周りの静かで美しい宇宙を眺めるとともに、星空の背後に隠れている激しい活動をする、ブラックホールや超新星などの活動天体を起源とする超高エネルギー宇宙線を通して、想像外の宇宙の姿を紹介するものだ。

太陽という、私たちになじみのあるトピックから始まり、2015年に梶田隆章氏がノーベル物理学賞を受賞して一気に注目が集まった“太陽からの”ニュートリノにまつわる少し専門的な内容まで、私たちにも分かり易くお話していただいた。

続いて宇宙劇場“プラネタリウム”による星座の上映が行われ、講演会は終了となった。コロナ禍で誰もがフラストレーションを溜めがちな昨今において、ひとときながらも美しい宇宙に想いを馳せる時間となった。

講演会ポスター

プラネタリウムの暗がりの中、講演中の井上先生

学生団体(サークル)活動

学生同士の親睦を深め豊かなキャンパスライフを築くため、本学はサークル活動を支援している。年齢や人生経験が異なる人達との交流が、共通の目的を持って活発に行われた。



Voice of the Circle

【学友会】

“手打ちクルミ”収穫体験レクリエーション(九戸村)

阿部 隆

クルミは昔から脂肪が6割、良質脂肪とマグネシウム、リン、ビタミンEが多く含まれる健康食品として食べられており、とりわけ九戸村で生産される手打ちクルミは「岩手に残したい食材30選」の一つとして選ばれています。

晴天に恵まれた10月3日(日)、学友会レクとして九戸村江刺家の小井田立休農業研究所を12人が訪ねました。広さ3ヘクタールの農場ではクルミの木の下で、生き物本来の自由な姿で牛と鶏などが飼われ、それぞれの特性を活かした食べ物が生産されていました。手打ちクルミは、殻が割れやすく鬼クルミ等と違う種でした。小井田重雄さんから立休農業の説明を聞き、牧場の乳牛の糞を踏みながらクルミを収穫しました。

■ 学生の感想

初めての体験でしたが、天気も良くのんびりした自然の中で、牛の糞を掻き分けながら作業を楽しみました。小井田さん親子の素朴で気さくな会話が心が癒されました。お昼は心づくしの栗ごはんおにぎりやキノコや菊の天ぷら、豚汁、しばらくの牛乳などをご馳走になり、小井田さんのお話をおつまみに楽しく過ごすことができました。是非毎年いらしてくださいとのオファーがあり、学友会年中行事に加えてもいいと思いました。



Voice of the Circle

【三線サークル】

歌碑を訪ねて やんばるツアー

桃原 友江

三線(さんしん)サークルで「歌碑の歴史を訪ねたい。」と計画し始めたのが、新型コロナウイルス感染症による行動制限がちょうど始まった頃。まさか長期間に渡って行動制限の事態になるとは、その頃の私たちの誰もが想像すらしていませんでした。

ようやく、感染者が減少し緊急事態宣言が解除となったのは、2021年10月。ツアー計画からじつに1年半が経っていましたが、やっと実現することができました。

先人たちが作って残した素晴らしい歌や曲を、歌碑の前で奏で、唄い、踊ったことは、大切な思い出になりました。その一方で、ツアー計画の目的であった歌碑の歴史や意味を紐解きながら歌に込められた思いを演奏することの難しさも痛感しました。サークルの仲間と和気あいあいと巡ったツアーでしたが、三線の奥深さを改めて実感するツアーでもありま

した。今後も精進し、そしてまた2回目の歌碑巡りができればと思っています。



サークル一員の神山律男氏は、三線の音楽を探究する為に一人で歌碑廻りをしていましたが、「サークルの皆で廻ろうよ」という意見をきっかけに、ツアーが実現しました。北部・中部・南部エリアに分けて、今回は北部エリアを巡りました。工程表や資料、DVDは神山氏の手作りです。サークルの皆にとっても、思い出の品となっています。



Annual Review 2021

データで見る放送大学

在学生数

単位:人

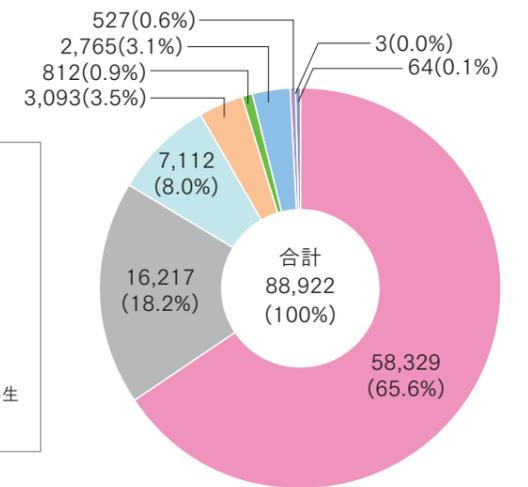
教養学部	学生の種別等	在学生
	全科履修生	58,329
	選科履修生	16,217
	科目履修生	7,112
	特別聴講学生	3,093
	合計	84,751

大学院

学生の種別等	在学生
修士全科生	812
修士選科生	2,765
修士科目生	527
修士特別聴講学生	3
博士全科生	64
合計	4,171

(2021年度第2学期)

(注)特別聴講学生とは、他の大学等の学生で当該大学等と放送大学との協定に基づき、本学において科目の履修を行っている学生です。



集中科目履修生

単位:人

学生の種別等	在学生
学校図書館司書教諭講習	970

(2021年度)

教職員数

単位:人

役員	6	※1
教員	86	
学習センター所長	50	
事務職員	251	
合計	393	※2

(2021年4月1日現在)

※1 学長(理事)、1副学長(理事)を含む

※2 重複があるため合計は一致しない

単位互換協定締結校数

単位:校

学校の種別	校数
大学院	12
大学	316
短大	94
高专	17
合計	439

(2022年3月31日現在)

入学者数

単位:人

教養学部	学生の種別等	1学期	2学期	合計
	全科履修生	8,944	5,294	14,238
	選科履修生	10,576	5,576	16,152
	科目履修生	5,320	7,112	12,432
	特別聴講学生	1,065	3,093	4,158
	合計	25,905	21,075	46,980

大学院

学生の種別等	1学期	2学期	合計
修士全科生	281	—	281
修士選科生	1,913	810	2,723
修士科目生	404	527	931
修士特別聴講学生	6	3	9
博士全科生	10	—	10
合計	2,614	1,340	3,954

(2021年度)

学部卒業者数

単位:人

1学期	2学期	合計	累計
2,535	4,243	6,778	125,026

(2021年度)

大学院修士課程修了者数

単位:人

1学期	2学期	合計	累計
2	226	228	6,668

(2021年度)

大学院博士後期課程修了者数

単位:人

1学期	2学期	合計	累計
—	8	8	36

(2021年度)